

# 北海道助産師出向 支援事業報告書

2018~2022年度



2024年3月  
北海道  
公益社団法人 北海道看護協会



## はじめに

公益社団法人 北海道看護協会  
会長 高橋久美子

北海道の周産期医療体制は集約化が進み、分娩取扱施設の減少、助産師不足等地域格差も大きくなっています。安心して子どもを産み、育てる環境が脅かされる事態に陥る可能性もあり、さまざまな方策を北海道では取り組んでいるところです。助産師が専門性と役割を発揮することは、妊婦の多様なニーズに対応し、地域における安全・安心な出産の場の確保、産科医の負担軽減等の成果につながると期待されています。

この助産師出向事業は、北海道看護協会が北海道より委託を受け、助産師就業の偏在解消と実習施設の確保、助産実践能力の向上を目的に2015年より展開し、準備を経て2017年より出向を開始しました。

最近の出向理由としては、出向先の助産師の地域偏在解消のための「応援出向」から、出向元施設の「研修目的出向」へとニーズの変化がおきています。少子高齢化による分娩数減少と、ハイリスク妊娠・分娩の増加等、周産期医療を取り巻く環境の変化が顕著となり、助産実践能力への不安が生じています。周産期医療の変化に対応し、地域で求められる助産師の専門性を発揮できる体制を推進するためにも、「研修目的出向」の要望もかなえていく必要を感じています。

新型コロナウイルス感染症拡大のため、2020年度は事業を中止せざるを得ませんでした。5年間で報告会を2回開催し、事業の周知と理解にも取り組むことができました。キャリアを活かし地域に貢献して頂いた皆さま、また出向の実現にご尽力頂いた皆さまに感謝申し上げます。出向の意向を示した全ての施設の要望に応えることができていませんが、地域の周産期医療の変化を見据えて、課題に対応しながら事業を継続していきます。今回2018年からの5年間の取り組みをまとめましたのでご一読頂ければ幸いです。今後とも皆さまのご意見・ご協力を賜り、本事業を推進して参ります。



## ご 挨拶

北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課  
看護政策担当課長 佐藤 行広

我が国では、産科医師不足や分娩取扱施設の減少に伴う周産期医療提供体制の変遷、少子化、ハイリスク妊娠・分娩の増加などを受けて、地域における安全・安心な妊娠・出産・育児環境の整備が喫緊の課題となっています。

北海道においても、2020年には3万8,686人だった出生数が、2022年には2万6,407人となり、全ての第二次医療圏で減少しました。また、産婦人科医師の不足等により、分娩を取り扱う「病院・診療所」は減少し、地域によっては、正常分娩を行う産科医療を確保することが困難な状況となっています。

道内で就業する助産師数は、2020年まではほぼ横ばいで推移していましたが、2022年の就業者数は減少に転じており、また、道内の人口10万人当たりの看護職員就業者数（常勤換算）は、第二次医療圏別では5圏域で全国平均を下回り、助産師も含めた看護職員の確保が困難な地域もあるなど地域偏在が課題となっています。

助産師一人あたりの分娩件数も地域偏在により地域・施設間の差が大きく、助産師の専門職としての技術やケア水準の維持・向上、キャリアの推進も不可欠であることから、道では、医療機関における助産師就業の偏在解消、助産師の実践能力の向上、多様な働き方やキャリアアップを総合的にコーディネートする仕組みの一つとして、2015年度から北海道助産師出向支援事業を北海道看護協会に委託し、助産師の確保と質の向上を図ってまいりました。

実態調査や意向調査等の準備期間を経て、2017年度5名の助産師が地域の病院へ応援派遣される応援出向につながり、これを足がかりに2018年度から2021年度まで、12名の助産師が応援出向及び助産師の実践能力向上を目的とした研修出向を行い、助産師不足の是正、地域医療への貢献、助産師としてのキャリアアップ等を図ることができました。

この間、新型コロナウイルス感染症の流行により、2020年度は出向を中止せざるを得ない状況もありましたが、事業の周知や理解を深めるための働きかけを継続し、2021年度には複数の施設から出向の意向や関心が示され出向を再開することができ、本事業のニーズの大きさを再認識したところです。助産師出向により、地域の医療機関では一時的にでも助産師不足の解消につながるとともに、助産師の実践能力向上の機会として、また、様々な地域での経験を通して助産師の専門性をあらためて考える機会として、本事業の意義は非常に大きいものと考えております。

今後も少子化や周産期医療提供体制など、助産師を取り巻く状況の変化を捉えながら、関係者の皆様のご意見をいただき、効果的に事業が推進されますことを願うとともに、本報告書が助産師出向への関心を高め、新たな助産師出向のきっかけとなりますことを期待しています。

最後に、報告書作成にあたり、委託事業者として多大なるご尽力をいただきました北海道看護協会の皆様に深く感謝申し上げます。



# 目次

## I 事業概要

1	事業名	1
2	目的	1
3	実施主体	1
4	助産師出向支援導入事業の概要	1
5	北海道助産師出向支援事業について	
	1)事業背景・これまでの経過	2
	2)実施体制	2
	3)北海道助産師出向支援事業協議会	3
	4)事業内容	4

## II 事業実施結果 年度別

### 1. 2018(平成30)年度

1	事業の運営	
	1)協議会の開催	5
2	施設への働きかけ	
	1)出向元・出向先施設に支援要請	6
	2)事業周知	9
	3)報告会・意見交換会の開催	9
3	出向施設マッチング・出向支援	
	1)出向元・出向先施設双方への調整	23
	2)出向施設間の調整	23
4	出向の詳細	24

### 2. 2019(令和元)年度

1	事業の運営	
	1)協議会の開催	28
2	施設への働きかけ	
	1)出向元・出向先施設に支援要請	29
	2)事業周知	29
	3)報告会・意見交換会の開催	29
3	出向施設マッチング・出向支援	
	1)出向元・出向先施設双方への調整	30
	2)出向施設間の調整	31
4	出向の詳細	32

### 3. 2020(令和2)年度

1	事業の運営	
	1)協議会の開催	33
2	施設への働きかけ	
	1)出向元・出向先施設に支援要請	34
	2)事業周知	34

3	出向施設マッチング・出向支援	
	1) 出向元・出向先施設双方への調整	34
	2) 出向施設間の調整	34
4.	2021(令和3)年度	
1	事業の運営	
	1) 協議会の開催	35
2	施設への働きかけ	
	1) 出向元・出向先施設に支援要請	36
	2) 事業周知	36
	3) 報告会・意見交換会の開催	36
3	出向施設マッチング・出向支援	
	1) 出向元・出向先施設双方への調整	55
	2) 出向施設間の調整	55
4	出向の詳細	56
5.	2022(令和4)年度	
1	事業の運営	
	1) 協議会の開催	60
2	施設への働きかけ	
	1) 出向元・出向先施設に支援要請	61
	2) 事業周知	61
	3) 報告会・意見交換会の開催	61
3	出向施設マッチング・出向支援	
	1) 出向元・出向先施設双方への調整	62
	2) 出向施設間の調整	62
4	出向の詳細	63
6.	5年間の事業評価と今後について	
1	事業評価	66
2	今後について	66

### III 資料

1	「助産師出向に関する意向調査」用紙【資料1】	67
2	「令和元年度 助産師出向に関する意向調査報告(概要版)【資料2】	72
3	助産師出向実績 目的別【資料3】	76
4	助産師出向実績 年度別【資料4】	77
5	広報内容【資料5】	78
	1) 北海道看護協会ナースセンター ホームページ	78
	2) 北海道看護協会ニュース	78



|

# 事業概要



# I 事業概要

## 1 事業名

北海道助産師出向支援事業

## 2 目的

助産師出向や助産師就業の偏在の実態把握を実施し、医療機関における助産師就業の偏在解消や助産実践能力の向上、助産学生実習施設の確保等を図る。

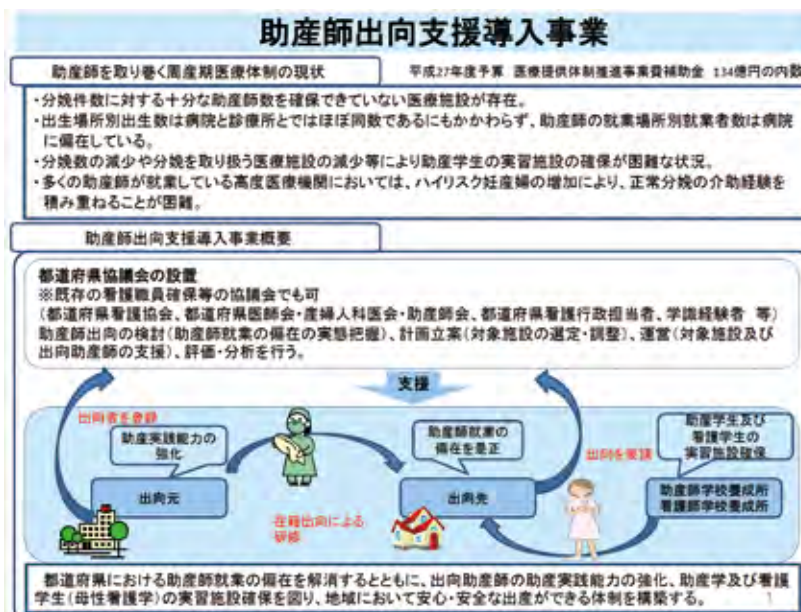
## 3 実施主体

公益社団法人 北海道看護協会

## 4 助産師出向支援導入事業の概要

日本看護協会は、平成25年・26年度に厚生労働省看護職員確保対策特別事業「助産師出向支援モデル事業」を実施（1都14県）し、事業の取り組みの評価を行った。その成果として助産師出向支援導入ガイドラインを作成した。平成27年度からは、都道府県を対象として、助産師出向支援導入事業を開始した。

参考) 厚生労働省のホームページに助産師出向支援導入ガイドライン掲載  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001015235.pdf>



出典：厚生労働省 助産関係基礎資料 平成25年度現在  
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000090718.pdf>

# 5 北海道助産師出向支援事業について

## 1) 事業背景・これまでの経過

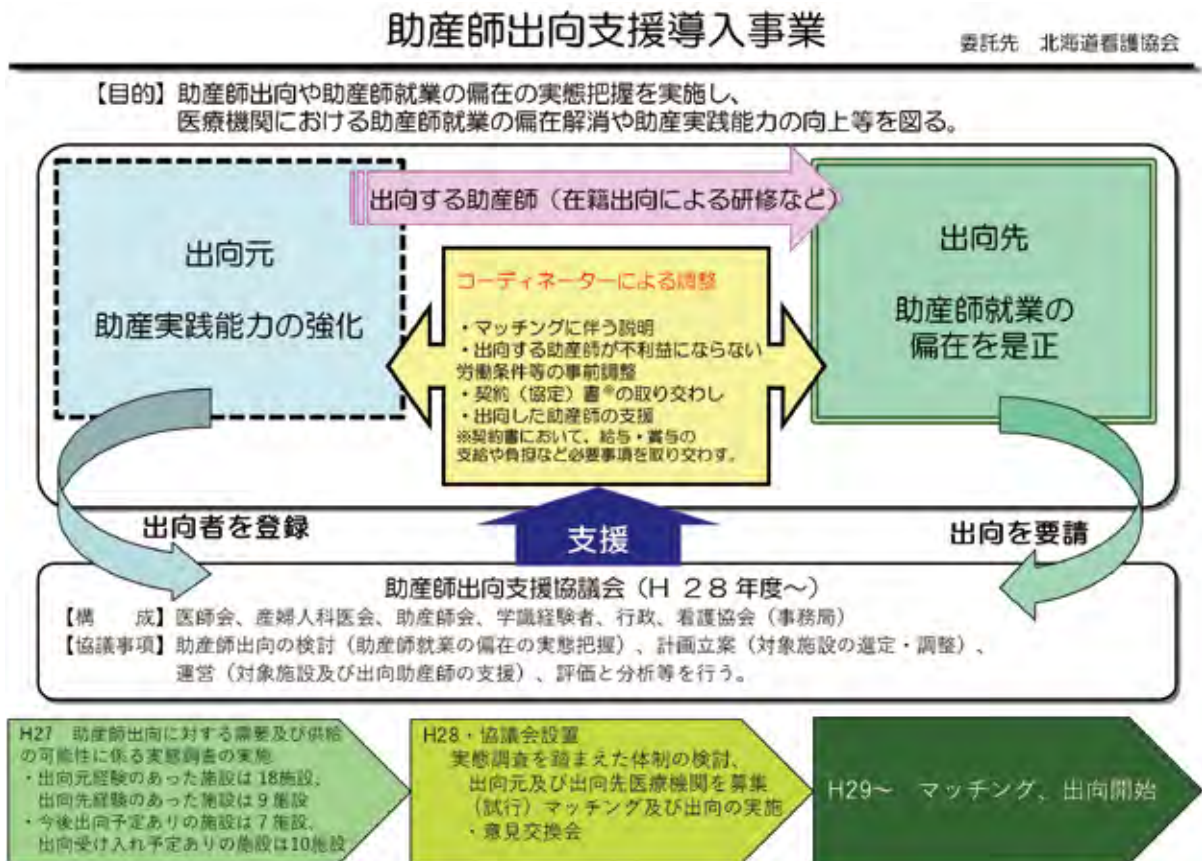
産科医師不足や分娩取扱施設の減少に伴い周産期医療体制が大きく変化中、北海道医療計画では、助産師外来の開設等の取り組み等があげられている。

道内の病院就業助産師\*は、100床あたり1.10と全国（1.48）と比べ低く、人口10万対助産師数は、二次医療圏別では全国平均を上回るのは道央圏など7圏域、下回るのは14医療圏と地域偏在が顕著となっている。また、出生数が減少している中、助産師の自律した正常分娩介助の機会が減少している現状がある。

これらのことから、北海道では、本事業を北海道看護協会に委託し、助産師就業の偏在を解消するとともに、出向する助産師の助産実践能力の強化を図るため、平成27年より助産師出向支援事業を実施した。

\* 2022年12月末現在

## 2) 実施体制



### 3) 北海道助産師出向支援事業協議会

#### 北海道助産師出向支援事業協議会設置要綱

- 1 趣旨 助産師出向にあたっての課題及び助産師就業の実態や偏在状況等を把握し、医療機関における助産師就業の偏在解消、実習施設確保や助産能力の向上等を図ることを目的に本事業を実施する。本事業実施における助産師出向支援の体制整備を図るため、「北海道助産師出向支援事業協議会」（以下、「協議会」という）を設置する。
- 2 協議事項
  - ① 道内の分娩件数、助産師配置等の助産師出向に関する実態
  - ② 助産師出向の課題と対策
  - ③ 助産師出向の体制づくり
  - ④ 助産師出向の試行マッチング
  - ⑤ 本事業の推進に向けた方策
  - ⑥ 本事業の広報
  - ⑦ 本事業の評価
  - ⑧ その他 事業実施上必要と認める事項
- 3 構成員 一般社団法人北海道医師会  
北海道産婦人科医会  
一般社団法人北海道助産師会  
札幌医科大学助産学専攻科  
旭川医科大学病院  
公益法人北海道看護協会助産師職能理事  
北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課  
北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課  
公益法人北海道看護協会会長  

（9名）

会長は、必要時、さらに、他のメンバーを招集できる
- 4 組織
  - ① 協議会に会長を置くものとし、委員の互選により選出する
  - ② 会長は、協議会を代表し、これを統括する
- 5 会議 協議会は、年に2回程度開催する  
開催日時の詳細は、各構成員と相談の上決定する
- 6 事務局 事務局は北海道看護協会に置く
- 7 附則 この要綱は、平成28年9月15日から施行する

（公益社団法人 北海道看護協会）

#### 4) 事業内容

事業項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	(平成27)	(平成28)	(平成29)	(平成30)	(令和元)	(令和2)	(令和3)	(令和4)	
事業の運営	協議会開催		協議会の設置						
	第1回開催日		11月11日	8月29日	8月27日	10月18日	1月25日	書面会議10月 10月12日	
	第2回開催日		3月23日	2月1日	3月5日	書面会議3月	コロナ禍のため 1回のみ開催	Web会議 3月7日 3月15日	
施設への働きかけ	専従コーディネーター配置	10月～3月	4月～7月		9月～3月	12月～3月			
	「助産師出向に関する意向調査」等の実施	11月実施		8月実施	7月実施	1月実施		7月実施	5月実施
		送付98施設 回答83施設 回答率84.7%		送付93施設 回答43施設 回答率47%	送付13施設 回答13施設 回答率100%	送付87施設 回答57施設 回答率65.5%		送付82施設 回答52施設 回答率63.4%	送付79施設 回答60施設 回答率75.9%
			・前年度調査結果報告書送付 ・再調査 意見交換会参加施設14施設 中9施設返信	再調査 意見交換会参加施設19施設 ・8月意向調査で意向があった2施設	再調査 前年度、意向調査未回答施設への電話訪問 病院21施設 有床診療所19施設		・前年度調査結果 ホームページ掲載		
	報告会・意見交換会の開催		12月10日 （「北海道助産師出向支援事業意見交換会」の開催）	9月9日	2月2日	中止 3月7日予定も新型コロナウイルスの感染拡大を懸念し、中止	・中止	3月16日 Web開催	次年度6月開催で企画
			参加 19名・14施設	参加 39名・20施設	参加 26名・16施設	申込 32名・21施設		参加 31名・14施設	
	施設訪問		2施設		18施設 （来所2施設含む）	3施設 （来所1施設含む）			
	電話訪問								
	ホームページ掲載								
	北海道看護協会ニュース掲載					4月号掲載	4月号掲載		4月号掲載 1月号掲載
出向施設マッチング・出向支援	協力要請		15施設	11施設	12施設	—	11施設	11施設	
	マッチング調整		10例	2例	「地域応援ナース」事業との調整3例	「地域応援ナース」事業との調整1例	4例	4例	
	マッチング成立		1例	5例	4例	1例	—	4例	3例
	出向助産師数	応援	1名	5名	3名	1名			1名
		応援+研修			1名			1名	1名
		研修						3名	1名
	出向施設数	応援出向元	1施設	3施設	2施設	1施設		1施設	2施設
		応援出向先	1施設	3施設	3施設	1施設		1施設	2施設
研修先				1施設 （応援兼ねる）			3施設 （1施設応援兼ねる）	2施設 （1施設応援兼ねる）	
研修元				1施設 （応援兼ねる）			3施設 （1施設応援兼ねる）	2施設 （1施設応援兼ねる）	



事業実施結果  
年度別





## II 事業実施結果 ー 1. 2018(平成30)年度

### 1 事業の運営

#### 1) 協議会の開催

協議会委員 9名		
役名	氏名	所属・役職名
会長	上田 順子	公益社団法人北海道看護協会 会長
委員	藤井 美穂	一般社団法人北海道医師会 常任理事
委員	齋藤 豪	北海道産婦人科医会 参与
委員	高室 典子	一般社団法人北海道助産師会 会長
委員	正岡 経子	札幌医科大学保健医療学部看護学科専攻科助産専攻 教授
委員	原口 眞紀子	旭川医科大学病院 副病院長・看護部長
委員	人見 嘉哲	北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 医療参事
委員	古川 秀明	北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課 看護政策担当課長
委員	小泉 由貴美	公益社団法人北海道看護協会 助産師職能理事

オブザーバー 3名		
所属・職	氏名	
北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 救急医療グループ 主査	橋本 淳	
北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課 看護政策グループ 主幹	石谷 絵里	
北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課 看護政策グループ 主査	弓野 壽子	

事務局 5名		
所属・職	氏名	
公益社団法人北海道看護協会 常務理事	佐々木 衿子	
事務局長	長尾 教雄	
ナースセンター課長	菅原 一美	
ナースバンク係長	丹尾 瑞恵	
(9～3月配置) 助産師出向コーディネーター	奥原 芳子	

#### 第1回北海道助産師出向支援事業協議会

- 日時 2018(平成30)年8月27日(月) 18:00～19:15
- 場所 大通看護研修会館
- 出席者 上田・藤井・齋藤・高室・正岡・原口・人見・古川・小泉
- オブザーバー 橋本・石谷・弓野
- 内容 ①2017(平成29)年度事業報告  
②2018(平成30)年度事業実施状況

#### 第2回北海道助産師出向支援事業協議会

- 日時 2019(平成31)年3月5日(火) 18:00～19:00
- 場所 大通看護研修会館
- 出席者 上田・藤井・齋藤・高室・正岡・原口・人見・古川・小泉
- オブザーバー 橋本・石谷・弓野
- 内容 ①2018(平成30)年度事業報告 ②2019(平成31)年度事業計画(案)  
③9月よりコーディネーター配置

## 2 施設への働きかけ

---

- 電話訪問・施設訪問等の情報を基に、施設の意向を把握し、協力の要請を行う。
- 専従コーディネーター配置（9月～3月）  
事業説明、施設の状況を情報収集し、出向事業推進に向けて働きかけを行う。

### 1) 出向元・出向先施設に支援要請

#### (1)マッチング調整のための意向確認

##### ① 意向調査の実施

###### ・調査対象

2017(平成29)年度の「助産師出向意見交換会・報告会後の出向に関する意向調査」で出向の意向がある（検討中含む）12施設、および分娩取り扱いを再開始し、出向の意向を示している1施設 合計13施設

##### ② 施設訪問・電話訪問の実施

###### ・施設訪問 16施設

###### ・電話訪問：2017(平成29)年度意向調査未回答施設 病院21施設、有床診療所19施設

##### ③ 結果

#### ●出向意向結果

出向元施設		出向先施設	
希望する	検討中	希望する	検討中
4	0	8	2

#### ●意見等

- ・出向先施設として研修目的の分娩経験数の積み上げは、現場が落ち着いていたら要相談（病院：6施設）
- ・学生実習や退職者がいるため等で、協力は難しい。
- ・クリニックは、全て協力は難しい。
- ・同設置主体施設で、新人助産師を育成目的で受け入れている。
- ・施設間の人々の動きだけでは解決策を見出すのは難しいところがあるように思う。行政の考え方が見えない。
- ・出向先が混合病棟の場合、不安がある。

## (2)施設訪問

### ① 目的

施設訪問により周産期母子医療施設としての情報収集や助産師出向支援事業に対する意見交換を行い、今後の助産師出向支援事業への推進につなげる。

### ② 対象

- ・総合・地域周産期母子医療センターで助産師在籍者が多い施設（札幌市内、上川中部地域、北網地域）  
\*釧路・根室地域の2施設は平成29年度訪問済
- ・今年度の出向先施設
- ・設置組織北海道支部

### ③ 訪問時期

2018(平成30)年10月～2019(平成31)年2月

### ④ 訪問実績

- ・総合周産期医療母子医療センター 3施設
  - ・地域周産期医療母子医療センター 11施設
  - ・他法人 2施設
- 合計16施設

### ⑤ ヒアリング結果

〈教育について〉

- ・多くの施設は、クリニカルラダーに基づきキャリア支援し、育成期間の目安は、助産業務に最低3年間、アドバンス認定取得申請に5～6年位だった。
- ・アドバンス認定申請は自施設で完結できる施設と完結できない施設があり、完結できない施設は正常分娩介助件数100件が難しく、「研修目的」で本事業を活用していた。一方で活用していない施設の中には設置組織の就業規定に沿い、研修費を支払い「研修目的」で他施設に研修に出していた。

〈人員について〉

- ・多くの施設の年齢構成は、20才代～40才代が多く、産休・育児休暇・育児短期時間が勤務・夜勤免除の子育て世代で占め、産休や育休復帰後は、外来勤務等に異動することが多く夜勤要員の確保に苦勞していた。
- ・分娩取扱いを一時停止や縮小した施設は再開時に助産師の確保に苦勞していた。
- ・院内助産や助産外来の準備と整備および学生指導に人員確保がいる。
- ・多くの施設は、部署内の人の動きは流動的であるが9月～10月頃に明らかになる。

〈出向先施設および出向元施設について〉

- ・出向先施設の主目的は人員不足による「応援」だった。
- ・出向先施設を、長年経験していた施設は「応援」と「研修」を兼ね、看護体制や看護手順および安全管理を整備し、出向元施設や出向助産師から信頼を得ていた。
- ・出向元施設は分娩介助件数の積上げや混合病棟でのユニットマネージメントを学んできていた。Win-Winの関係を築いていた。
- ・初めて出向先施設となった施設は、出向が刺激となり看護手順の整備に取り掛かるなどの課題を見つけていた。
- ・出向元施設としては、出向先施設の需要時期に人員が安定していることと学生実習のスケジュールにより検討できる。
- ・出向先施設としては、「研修目的」で正常分娩介助の積上げが主では難かしいが、助産外来やハイリスク分娩の管理で受入れを検討できる。
- ・「応援目的」の出向先施設は婦人科以外（小児科・泌尿器科・耳鼻科・内科・外科）の混合病棟だった。
- ・出向先施設から、出向期間は3か月～1年間位を希望していた。
- ・本事業には、新規開拓のため「研修目的」で分娩介助が主の出向先施設の情報提供を希望。
- ・施設間の情報交換の場を希望していた。
- ・応援ナースのように出向助産師へのインセンティブがあっても良い。

#### 〈出向助産師について〉

- ・看護手順や安全管理等が整備されていた施設への出向は、不安の軽減になっていた。
- ・部署に出向経験を還元し後輩にも出向を進めたい。
- ・産科以外の診療科の看護ケアの安全管理に不安があった。
- ・業務以外で、地域での楽しみ方を見つけ生活していた。
- ・若い助産師は、コミュニケーション能力の問題やメンタルの弱さ等から、一人で慣れない環境に行く不安が強い。
- ・産科単科病棟のみの助産師は助産師キャリアに関係なく、混合病棟への不安が強い。

#### 〈臨地実習について〉

- ・殆どの施設は複数校の母性看護と産科の実習施設として学生指導への人員の確保が必要だった。

#### 〈ネットワークについて〉

- ・地区支部等で助産師ネットワークにより近郊の助産師の離職状況や近況をほぼ把握していた。
- ・他施設の学習会等を通して交流をしていた。

#### 〈その他〉

- ・研修医のようにアドバンス助産師認定条件に地域貢献の内容が含まれていると良い。
- ・奨学金で進学を進めているが入学が難しい。助産実習施設の確保との関係があるが、助産師の確保対策としても、助産師養成校の入学時の定員数を抑えないことが必要なのではないか。
- ・同施設の医師と助産師がペアで出向するなど多様なバリエーションがあっても良い。

## 2) 事業周知

- 北海道看護協会 ホームページに掲載

## 3) 報告会・意見交換会の開催

### (1)目的

助産師出向の実際と成果の報告を行い、事業の理解を深め、助産師出向支援事業の更なる発展を目指す。

### (2)開催日時

2019(平成31)年2月2日(土) 13:30~15:30

### (3)場所

公益社団法人北海道看護協会 2階研修室

### (4)参加対象

- ① 産科または産婦人科を標榜し、分娩取扱医療機関の施設長・看護管理者・事務担当者
- ② 周産期医療に携わる助産師・看護師
- ③ 看護教育機関の教員および助産師・看護学生

### (5)参加状況

参加人数：26名

参加施設：16施設

札幌医科大学附属病院／旭川医科大学病院／市立札幌病院／札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル／旭川厚生病院／浦河赤十字病院／市立釧路総合病院／遠軽厚生病院／KKR札幌医療センター／伊達赤十字病院／富良野協会病院／函館中央病院／NTT東日本札幌病院／JCHO北辰病院／札幌厚生病院／手稲溪仁会病院

(内訳) 初参加施設 5施設

北海道看護協会助産師職能委員 4名

出向元施設経験施設 2施設

出向先施設経験施設 3施設

(参加者職位) 副病院長 兼 看護部長、看護部長、副看護部長、看護師長、副看護師長相当

\*看護教員、学生の参加者はなし

(6)実践報告者

内 容	報 告 者	出向期間
出向元施設からの報告	札幌医科大学附属病院 副部長 工藤 美幸	2017(平成29)年 7月1日～8月31日
出向先施設からの報告	浦河赤十字病院 看護部長 澤田 まゆみ	2017(平成29)年 7月1日～8月31日
出向助産師からの報告	札幌医科大学附属病院 副看護師長 中村 知佳子	2017(平成29)年 8月1日～8月31日
出向助産師からの報告	札幌医科大学附属病院 主任助産師 中村 仁美	2017(平成29)年 7月1日～7月31日

(7)報告者の報告内容

- 〈出向元施設〉 助産師出向支援事業への参画の経緯と準備、課題について
- 〈出向先施設〉 助産師出向支援事業へ参画への背景、受入れまでの準備、出向でのメリット、課題について
- 〈出向助産師〉 出向準備から出向まで、出向での勤務内容、目標の評価、学び
- 〈出向助産師〉 出向の動機、出向での役割、難しさと楽しさ、出向での成果



## (8)全体会

### ① 「助産師出向支援事業における施設訪問の結果」報告

### ② 意見交換

- ・北海道助産師支部職能委員委員長から情報共有、全国助産師職能委員会協議会での事業の進捗状況の報告
- ・出向助産師からの報告を聞き、学んできたことや体験内容を共感できると少しずつ出向事業が広がる。
- ・出向先施設から、分娩介助だけでなく、地域特性から妊娠や分娩指導も必要で広い視野が必要なため、経験豊富な助産師も歓迎する。
- ・出向先施設から、出向助産師の働きが刺激になり助産科へ進学する希望者がいた。
- ・初参加の施設から道南圏で総合周産期医療センターの役割を担っており、数年後に出向元施設として考えている。年齢偏在のあるチームで10年前後の世代が少ないが、今回、報告を聞き40才代、50才代でもやっていると力をもらった。
- ・出向元施設から出向のきっかけは、意見交換会で厳しい地方の現実を聞き、当院の役割として出向元施設になる決意をした。派遣先の病院から感謝の言葉や好条件の提示が出向の後押しになった。今後も意見交換会ができると良い。
- ・出向助産師報告者ともに、公私の環境が出向に行ける条件があった。子育て世代の出向は難しいが、長期的にみると出向は自分の知識・技術・判断力を客観的に見れるためスキルアップには良い。そのため子育て世代であっても出向への意思確認をした方が良い。
- ・事前に出向先施設と細かな調整ができ、希望を配慮してもらえたことが出向に対して前向きに考えられる要因となった。期間は、1ヶ月は慣れた頃に終了なので3か月～半年位が地域の特性も分かるので良い。
- ・出向元施設の準備は、協定書を双方の事務方と出向助産師が不利益にならないように作成した。今後は、出向助産師は事前に施設訪問があると良い。
- ・出向元施設としては、アクセスが課題になる。
- ・声がかかれば、また行きたい。
- ・自家用車で高速で4時間だったが、時間の感覚は個人差があり苦痛に感じなかった。
- ・副師長の役割を持っている出向者は、調整や指導はメールを活用して行っていた。

## (9)出向事例報告および意見交換会開催の評価と課題

- ・参加状況は、前年度と比較すると参加者・施設数共に減少した。このことは、今年度、分娩縮小や停止の施設の参加がなかったことや時期的に遠方からの参加は難しかったと考えられる。
- ・初参加の5施設の内2施設と職能委員の参加は、訪問に行った施設だったことから、施設訪問による成果といえる。
- ・看護教員・学生の参加を期待しての時期設定をしたが申込者はなかった。
- ・今後の開催時期については、時期の検討を要する。
- ・事例報告や全体会は、活発な意見交換となり参加者の出向への理解と関心を深める機会となったため、今後も継続をする。

## 平成30年度北海道助産師出向支援事業報告会

### 出向元施設からの報告

平成31年2月2日  
札幌医科大学附属病院  
工藤 美幸

## 過去の助産師派遣状況

時期	期間	派遣先
昭和62年4月～ 平成18年3月末	延べ19人 各1年間	道立江差病院
平成21年4月～ 平成24年3月末	1年間 1人 2年間 1人	留萌市立病院
平成23年8月～ 平成26年9月末	延べ3人	町立中標津病院

## 助産師派遣による利益

- ・派遣先  
労働力の供給  
派遣期間中の実習指導者講習会の受講
- ・当院助産師  
正常分娩助産件数の増加  
モチベーションのアップ

## 助産師派遣の課題

- ・派遣期間は転勤、あるいは退職をして派遣していたため、札幌市に一人暮らしの職員は市内の住宅を引き払って赴任していた。  
  
平成26年以降派遣希望者はなく、派遣先の助産師不足もある程度解消され派遣は中止となっていた。

当院の理念 地域医療への貢献

周産期医療への地域貢献  
労働力供給・人材育成

助産師出向事業への参画

分娩助産件数の増加→アドバンス助産師認定

周産期看護の質の可視化  
→患者の安心・信頼  
→紹介病院の安心・信頼

自己のキャリアの可視化  
→助産師のモチベーション向上  
→助産実践能力の向上

## 助産師出向事業への参画

- ・平成28年12月 於北海道看護協会  
北海道助産師出向支援事業意見交換会へ  
産科病棟看護師長と参加した。  
出向要請施設の現状を認識  
出向時の条件(住宅等)について情報収集  
ができた。
- ・浦河赤十字病院への出向を検討

## 助産師出向事業への参画

- ・病院長への説明
- ・総務課への説明
- ・派遣者の身分・処遇について総務課と検討
- ・出向先施設との連絡調整
- ・出向職員の人選  
アドバンス助産師を選
- ・協定書の作成

## 出向に関する協定書

- ・給与 札幌医科大学が支給する。
- ・旅費 浦河赤十字病院が支給する。
- ・勤務時間・休日は浦河赤十字病院の関係規定を適用する。
- ・休暇は札幌医科大学の規定に準じて浦河赤十字病院において措置する。
- ・災害補償 労働者災害補償保険法の定めにより取り扱う



### 出向に関する協定書

- 雇用保険 札幌医科大学は出向職員に係る掛金を徴収し、北海道労働局に払い込む。
- 経費の負担 札幌医科大学が支給した給与、手当に相当する額については浦河赤十字病院が負担し、札幌医科大学に納付する。
- 出向期間 平成29年7月1日～7月31日  
平成29年8月1日～8月31日

### 出向先との連絡調整

- メールを活用し、病院・看護部・病棟の概要や住居の状況、家具・家電等設備、周辺情報を送っていただいた。
- 出向職員から確認したいことを出してもらい、文書で回答を得た。
- 業務内容の詳細については出向職員と病棟師長で直接連絡をとりあった。

### 課 題

- 住宅費用の問題は未解決  
今回の出向職員は従前から住宅手当が支給されていない職員であったことと、無料で住宅を提供いただいたため、問題は無かったが、当院の住宅手当が出ないことから出向先からも納付ができなかった。
- 出向期間中の人員不足→臨時職員の雇用

## 出向先施設からの報告



2019年2月2日  
浦河赤十字病院  
看護部長 澤田 まゆみ



## 浦河赤十字病院の医療圏



## 浦河赤十字病院の医療圏



## 浦河赤十字病院の概要

**病床数 171床（許可246床）**  
 一般病棟116床 10対1  
 感染症 4床  
 療養病棟 51床  
 休床（精神科50床 一般25床）  
**標榜診療科 16科** 内科・小児科・産婦人科・外科・整形外科  
 眼科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・精神科  
 神経科・皮膚科・脳神経外科・麻酔科・血管  
 外科・リハビリテーション科・放射線科  
**職員数 238.7人（H30年4月1日）**  
 医師18人、医療技術34人、看護職120.1人 その他66.6人  
**病院の機能**  
 災害拠点病院、地域センター病院、へき地医療拠点病院、救急告示病院、地域周産期母子医療センター  
 訪問看護ステーション、看護専門学校を併設

## 浦河赤十字病院の概要

**患者数 1日平均**  
 入院：157.9人  
 外来：356人  
**病床利用率**  
 一般：90%  
 療養：85%  
**平均在院日数**  
 一般：15.6日  
 療養：271.1日

平成29年度

## 病院理念

浦河赤十字病院は、地域の人々が生涯を通して健やかに安心して暮らせる社会の形成に貢献することを目指します

## 看護体制

**受け入れ病棟：4階病棟 60床**  
 産婦人科・内科・小児科・眼科  
 混合病棟  
**看護配置基準：10対1**  
**看護必要度：16.4%**  
**看護体制：固定チーム、DAYパートナーシップ**  
 3交代 準夜勤4人・深夜勤4人  
 助産師8人（看護師長含む）  
 看護師26人  
 看護補助者3人  
 介護福祉士4人

## 産科医師の状況

医師の人数

1人体制

医師の応援先 5か所の病院より応援

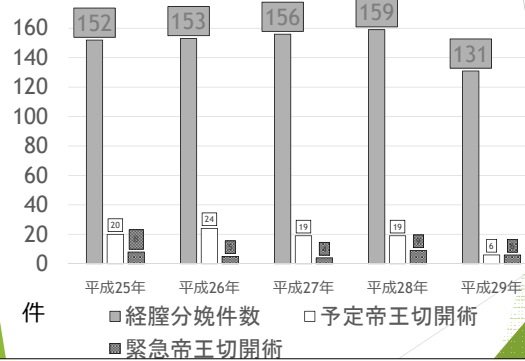
日程 日曜日17:00~木曜日17:00

木曜日17:00~日曜日17:00

1週間 3名の医師でローテーション

9

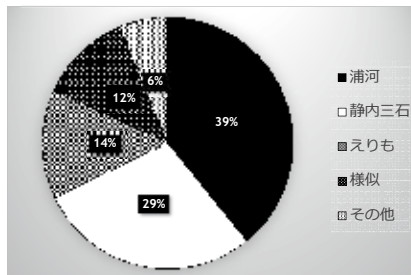
## 当院の分娩状況



件

■経産分娩件数 □予定帝王切開  
■緊急帝王切開術

## 町村別当院の受け入れ状況 (平成29年)



11

## 分娩件数と助産師・看護師数

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
総分娩数 (年度)	180	182	179	187	143
経産分娩 (年度)	152	153	156	159	131
	84.4%	84.1%	87.2%	85.0%	91.6%
予定帝王切開 (年度)	20	24	19	19	6
	11%	13.2%	10.6%	10.2%	4.2%
緊急帝王切開 (年度)	8	5	4	9	6
	4.4%	2.7%	2.2%	4.8%	4.2%
4/1付助産師総数 (臨時)	10 (1)	10 (1)	6 (0)	5 (0)	7 (0)
看護師総数 (臨時)	17 (1)	22 (4)	28 (2)	29 (2)	25 (2)
准看護師総数 (臨時)	5	2	3	3	3
日赤応援助産師数	2	3	2	1	3
看護協会助産師応援					7月1名 8月1名
助産師合格人数 (当院)	0	0	0	0	2 (1)

## 助産師出向を希望した背景

- ・助産師不足により日本赤十字社における看護職員人事交流システムを活用し平成25年から助産師の派遣にて体制を維持
- ・平成29年度 北海道看護協会 助産師出向支援事業に参加

13

## 出向までの流れ

平成29年・・・5月連絡

出向期間・・・平成29年7月・8月

1名1ヶ月づつ

出向元へ情報提供 (住宅・病院近辺)

出向元へ業務内容の送付・・・平成29年5月

14

## 出向に至るまでの病院対応

- ・住宅 (職員看護師寮)
  - テレビ・冷蔵庫・洗濯機・炊飯器・電子レンジ・ガスコンロ
  - フライパン、なべ、茶碗、皿など一式・掃除機・カーテン
  - ベット・布団一式など当院にて準備
- ・住宅家賃、光熱費、インターネット
- 赴任旅費など含め
- 当院にて負担



15

## 業務内容

日勤業務

- ・分娩予定者の入院取扱い並びに観察、分娩介助
- ・産褥ケア指導、新生児ケア
- ・婦人科患者のケア
- ・看護専門学校 実習指導 等

16

## 派遣していただいたメリット

- ・病棟産科患者の日勤ケアの充実
- ・夜勤体制の充実
- ・産科外来の妊婦検診とおっぱい外来を充実
- ・新しい知識と情報交換

17

## 出向先としての課題

- ・事前情報提供とオリエンテーション
- 出向して頂く方が、安心して勤務してもらえるように住居環境、職場環境、患者情報等を詳細に、お伝えし相談窓口を明確にしていく必要がある。

18

## 助産師確保対策の実施

- ・助産師 4名すべてアドバンス助産師
- ・看護を語ろう会や併設する看護学校での助産師の魅力話す機会を開催
- ・助産師希望の看護師とご家族に対して進学相談
- ・助産師学校進学者への支援

19

## 出向先から

助産師の魅力を伝えて頂いたことにより、人材育成に大きな影響を及ぼす機会を得ましたことに感謝いたします。

ご清聴 ありがとうございました。



20

## 浦河赤十字病院 出向報告

公立学校法人 札幌医科大学附属病院 南6階病棟  
副看護師長 中村 知佳子

## 浦河赤十字病院 出向報告

1. 出向準備から出向までの流れ
2. 出向施設での勤務の実際
3. 目標の評価
4. 出向を経験して得た学び・感想

### 出向準備から出向までの流れ

- 看護師長より、時期は不明ですが  
「地方への出向依頼が来てるけど...誰がいいと思う？」と会話したような気がしますが、はっきりとした記憶はない。  
私「副師長の私は対象外だろうな...(自分的にはいくのはOKだけど)」と思いました。  
面談で、地方出向に行けそうな人に声をかけてみるようなことも言っていたような気がしますが、  
「初の出向先で短期間だから、一通りのことが自立している人じゃないと、厳しいよね。若い人っていうわけにはいかないし、アドバンス持っているくらいの人じゃないと難しいね」というようなことを話していたような気がします。

### 出向準備から出向までの流れ

- その後、師長から「1か月だけど、浦河日赤に出向いける？」
- 私「いけますよ。(私が行ってもいいんだ...)」
- 教員時代に、4か所ほどの実習施設に出入りしており、他施設の経験は一応あるし、転勤で戻ってきたときに看護師として4年の経験あるし、出向でほかの施設に行くことには特に抵抗はなかった。
- 私以外にもう一人、いくことを聞いた。
- 時期は、夏がいいな...(車で行くので雪がないほうが良いなという単純な理由)

### 出向準備から出向までの流れ

- もう一人の出向に行く中村仁美さんと、情報交換しながら、準備開始
- H29年5月に、勤務体制等についての確認したい項目を看護部をとおして、文書にして問い合わせた。
  - ①勤務体制について(病棟?外来も?待機は?)
  - ②労働体制について(週休2日?)
  - ③ユニフォームの管理(洗濯はどうなる?)
  - ④住居環境について  
(門限は?ネットは?風呂・洗濯機は共用か?)

### 出向準備から出向までの流れ

- 浦河の方と直接連絡取ってもOKとの許可もあったので、浦河日赤の病棟師長さんに直接電話で連絡をとりました。(6月)
- 視察訪問など時間もなかったのでしませんでした。
- ネットで浦河赤十字病院について調べてみた。
- 事前に文書で浦河赤十字病院と看護部と実際に勤務する4階病棟についての概要をいただいたので参考になりました。

### 出向準備から出向までの流れ

- 日常生活等についての情報も事前に文書でもらうことができました。
  - ①病院と寮とのアクセスについて
  - ②生活家電等の提供品目録
  - ③買い物、移動手段について(自家用車なら駐車場を準備してもらえ、病院車の貸し出しもしてもらえる)**←自分は自家用車で行きました。**

### 出向準備から出向までの流れ

- 出向に行くにあたって、自分なりに助産師出向事業についてのリサーチをした。
- 「助産師出向支援導入事業ガイドライン」を一読し、目的を確認した。
- 自分がどのような立ち位置で出向に行くのか、自分なりに考えてみた。
- そのために、必要な準備はなんだろう...
- 自分が不在の間にもう一人の副師長とも副師長業務について調整をした。

## 出向時の目標

- アドバンス助産師として、ハイリスク施設での自分の経験を生かして地域貢献できる。

## 勤務の実際

- 出向期間:平成29年8月1日～31日まで(1か月)
- 4階病棟(産婦人科、小児科、亜急性の内科、眼科の混合病棟)で勤務
- 日勤のみで夜勤・分娩待機はなし
- 週休2日で、交替勤務のため土日出勤あるが、平日に振り替え
- 必ず、助産師が勤務に勤務するようなシフト体制
- 電子カルテシステムが導入されていたが、幸い当院と同じ富士通だったので、操作は何とかなった。

## 勤務の実際

- 主な業務内容
  - ①分娩介助を含めた妊産褥婦、新生児のケア  
授乳指導・退院時保健指導・沐浴指導
  - ②退院した褥婦の電話訪問
  - ③婦人科手術患者の術前術後のケア(コーン手術)
  - ④附属の看護学校の母性看護学実習の実習指導

## 病棟案内図



## LDR



## 新生児室(観察室)



## 目標の評価

- 1か月という、短い期間だったこともあり、自分自身が環境に慣れたころに出向期間が終了したという印象
- 本州からの応援助産師(2年目と3年目)の指導や、看護学生の実習指導もする機会があったが、自部署での学生指導及び教員経験があったのでその点では、地域貢献できたのではないと思う。

## 学び・感想

- 地方病院の現状をより具体的に知ることができた。
- 出張医とのやり取りのむずかしさを痛感した。
- 母体搬送する側の体験をする機会を得ることができた。その場合に必要な知識や技術について再認識してさらに自己研鑽しなければならないと改めて振りかえることができた。
- 限られた人材の中でどうやって効率よく、安全を確保して医療を提供するか...の工夫(業務改善)のヒントを得られた。

## 学び・感想

- 産後も、継続して自分が分娩介助した褥婦をみる  
ことができたので、継続した看護実践ができた。
- 自分のハイリスク施設でのキャリアが非常に役に  
たった。
- 教員やNICUでの経験、怖い思いをしてきたハイリ  
スク分娩での経験はやっぱり無駄じゃなかったな...  
と、自分をより肯定的に受け止めることができた。

## 正直、戸惑った点

- 他部門とのやり取り(検査部や手術室など)の流れを把  
握するまでは、時間がかかった。
- 病棟の構造や物品の置き場所の把握ができるまでは大  
変だった。
- 使用済みの器械の処理やごみの仕分け方法が違うこと
- 電子カルテシステムの操作方法(PCに弱い人だと多分  
とっても大変だと思う)

## 出向助産師を体験して

2017. 7  
浦河赤十字病院にて

公立学校法人 札幌医科大学附属病院  
南6病棟  
助産師 中村仁美

## 出向期間・場所・目的

- \* 出向期間 平成29年7月1日から31日(一ヶ月)
- \* 出向病院 浦河赤十字病院
- \* 出向目的 主に応援出向・指導目的出向

## 出向の動機

- \* 上司より浦河日赤病院への出向の話を頂いて。

経験年数や他の病院にても産科の経験があることから、どれだけ力を発揮できるかは自信に欠けたが、少しでも役にたてるのであればと思い勇気をもって行くことを決断する。

## 出向の動機

- \* 助産師の出向制度として自分にできる役割は。  
大学病院でみてきたハイリスク妊娠・分娩・産褥のケアを生かす機会となれば出向した目標の一つは果たせるのではないかと。
- \* 経験値として自分の力を試してみたい。  
今まで身につけてきたことを地域のために力になれると良いという反面、出向目的に期待された役割を本当に達成できるのだろうかという不安もあった。

## 出向の動機

- \* 地域の拠点病院としての役割を知ることができる。

浦河赤十字病院が日高地区の拠点病院である。  
太平洋沿岸の日高の妊婦のほとんどが浦河赤十字病院でお産される。概ね正常産である。ここで治療ができないハイリスク妊婦は苫小牧市や千歳市の病院に紹介または搬送される。  
出向で助産業務を行うということは、その期間、地域の拠点病院の顔となるということである。

## 出向助産師としての役割

- \* 大学病院から地域の拠点病院への出向  
大学病院のようにシビアなハイリスク妊産褥婦の関わりは無かったが、軽度の妊娠期高血圧症候群を合併した産婦の分娩にたずさわった。大学のように始終医師がその場に居るわけではなく自分の判断でどのタイミングで医師を呼ぶのか、児処置の看護師に連絡するタイミングなどノウハウは分かっているが慣れるまで、既存の看護スタッフに色々教えていただいた。

## 出向助産師としての役割

- \* 応援出向とは  
自分の持っている知識や技術を地域のために役立てるという大前提のもと、戦力としてその地域のために貢献する目的と考えるが今回の出向でもっとも不安に思った部分である。
- \* 指導的役割りとしては  
新人助産師が別の病院から出向してきていたため、その方への知識の伝授や技術指導を行った。

## 出向して助産業務する難しさ

- \* 事前情報から自分の動き方をイメージする。  
年間の分娩数など妊婦情報に関する数値は予め情報を頂いていたが、それだけでは実際に出向した際、思い描いていた自分の動きとは若干違い、修正することからはじまった。  
可能であれば見学してから業務に就くのが理想である。



## 出向して助産業務する難しさ

\* 分娩予定者の入院時期の判断。

地域の状況を把握していなければならないため、初産・経産だけでなく、病院に向かってくる所要時間を住所や地形、天候など判断要素が、普段よりも難しいと感じた。

分娩台で安全にお産していただくためにと考え、既存のスタッフと相談し、少し早めでも入院していただくようにしていた。

## 出向して助産業務をする難しさ

\* 普段とは違う状況の中で分娩介助すること。

ところ変われば使用している物品やノウハウ・受けるルーチン指示も違うため早く慣れることが要求される。

毎日、分娩が無くとも分娩室は必ず点検し、分娩になったときのことを想定して物品を補充していた。

施設が新しかったため无影灯がリモコン操作で自動に動くことや胎児監視装置のプロープの装着も普段使用していないタイプだったため慣れるまで操作方法を他のスタッフに確認してもらった。

## 出向して助産業務をする難しさ

\* 地域に合わせた保健指導。

保健指導は地域の中で産後の体を癒し、育児をしていくための基本知識を身に付けてもらうため行う。この説明により、家に帰ったときに褥婦が困らないようにするという目的がある。地域の特殊性というところを大事に考えると一ヶ月しか出向しなかったため、自分の中で捕らえきれないとは言えない。

## 出向して助産業務する楽しさ

\* 正常産婦に対しての助産診断が主体的にできる。

大学病院でケアする妊産褥婦はハイリスクの方が対象で、治療主体であることが多く、診断は医師が主体的となる。

健康な妊産褥婦と関わる機会が多く、助産師として主体的な関わりをさせていただいた。

## 出向して助産業務する楽しさ

\* 地域の生活に密着しながら働く。

普段とは違い、浦河町で病院の宿舎に入居させていただき、休日は近隣のスーパーや観光案内に載っているレストランや地元の菓子店を訪れ余暇を楽しむことができた。

病院で用意していただいた自転車を他の派遣・出向スタッフと共有させていただき、夏の天気の良い日の海岸線の景色を楽しむなど気分転換ができた。

## 出向して助産業務する楽しさ

\* 産科だけではなく婦人科の患者さんにも関わられた。

婦人科の手術を受ける患者さんの入院から退院まで関わることができ、普段あまり関わることのない病状の方とふれあえた気がする。疾患と付き合いながら生活していく方のお世話を久しぶりにできて新鮮なきもちになった。

## 出向して助産業務する楽しさ

\* 地元のスタッフの皆さんに支えられた。

出向して初日から体調が悪いことに気づき、翌日から発熱と下痢のため、出向翌日から一週間のお休みをいただき、出勤してから体調を気遣う声かけをされ、本当にありがたかった。

地域の方々の暖かさに触れ、慣れない環境でも頑張れた。どれだけ力になれたか分からないが、私にとっては貴重な体験となった。

## 出向を終えて

\* 正常経過をたどる妊産褥婦と接することができた。

普段はハイリスク妊産褥婦をケアしているため、久々に自然経過をたどる分娩をお世話する機会を得ることができて改めて、人間の持つ自然の力を実感できた。

仕事場所が変わることで初心に戻り新鮮な気持ちで働くことができた。

## 出向を終えて

\* 大学病院のハイリスク妊産褥婦への対応を改めて考える機会になった。

リスクが高い妊産褥婦でも、お産に臨む心構えは女性として誰にでも備わっているの、つい疾患やハイリスクの部分を中心としてケアしがちであったことを認識し新たな気持ちで大学に戻ることができた。

## 出向を終えて

\* 自分の力量を見直す機会となった。

経験年数は重ねても、外来経験が長かったため、違う土地で分娩を扱うことが怖くもあった。

何年働こうがひとりひとり妊産褥婦にとっては人生の貴重な時間であり、そこに携われることをいつも謙虚に厳粛に受け止めて関わることの重要性を改めて感じる事ができた。

## 出向を終えて

浦河赤十字病院のスタッフの皆様には、忙しくとも親切丁寧に関わっていただき、本当に感謝いたしております。

看護部長・病棟師長からも温かく見守っていただきありがとうございました。

今後の助産業務にこの貴重な体験を生かしていけるように研鑽していきたいと思っております。

ご清聴ありがとうございました。

### 3 出向施設マッチング・出向支援

#### 1) 出向元・出向先施設双方への調整

##### (1) マッチング調整のための意向確認

- ・施設訪問：16施設
- ・電話訪問回数：48件
- ・ナースセンターへの来訪施設：2施設

#### 2) 出向施設間の調整

##### (1) 出向実績

No	第三次医療圏	出向目的	在籍形態	出向時期	期間	出向元施設	出向先施設	出向助産師数	
								助産師数	助産師経験年数
1	道北⇒道北	応援研修	移籍型	2018(平成30)年 4月1日～11月30日	8か月	旭川医科大学病院	市立稚内病院	1名	4年
2	道央⇒道央	応援	在籍型	2018(平成30)年 ①9月1日～30日 ②11月1日～30日	2か月	札幌マタニティ・ ウイメンズホスピタル	小樽協会病院	1名	3年 ※看護師経験あり
3	道北⇒道央	応援	在籍型	2018(平成30)年 11月1日～ 2019(平成31)年 1月31日	3か月	旭川医科大学病院	小樽協会病院	1名	11年
4	道央⇒道北	応援	在籍型	2019(平成31)年 1月7日～3月30日	3か月	札幌マタニティ・ ウイメンズホスピタル	富良野協会病院	1名	8年 ※看護師経験あり

※新型コロナウイルスの感染拡大を懸念し、報告会は中止

## 4 出向の詳細

### 【事例の詳細-1】

項目	内容
出向目的	1. 応援出向 2. 研修目的出向
在籍形態	移籍型
出向期間	8か月 2018(平成30)年4月1日～11月30日
出向元施設	旭川医科大学病院
出向先施設	市立稚内病院
出向受入目的	1. 地域偏在の是正(マンパワー不足) 2. 実践能力向上・研修目的
出向助産師経験年数	4年
出向助産師の動機	1. 自然経陰分娩の経験 2. 自施設以外での経験 3. 地域の周産期医療の現状理解
出向助産師の目標	1. 自然経陰分娩を経験し、助産ケアの振り返り、向上ができる。 2. 自施設以外の産褥期ケアの経験、母乳育児支援に対する認識、ケアの向上ができる。 3. 地域周産期医療の現状理解、搬送先となる自施設での助産師の役割を明確にする。
所属部署・診療科	産婦人科・小児科
勤務形態	3交代
業務内容	分娩介助、妊婦・褥婦・新生児担当業務、学生指導
分娩介助件数	23件
評 価	
出向元施設 (看護代表者)	1. 当院で経験できない分娩の経験や、搬送元での勤務を経験したことは大学病院での助産師の役割を再認識することができた。今後の患者ケアや後輩育成に積極的に実践してくれることを期待する。 2. 半年間の予定で出向であったが、目標未達成のため延長となった。延長についてはスムーズであり問題なかったが、分娩介助件数が半年間では目標に達しなかったため、出向期間について、もう少し検討した上で送り出す必要があった。
出向先施設 (看護代表者)	1. 出向元施設、助産師の厚意により、出向期間6か月を2か月間延長し、8か月間の出向となり、助かった。 2. 助産師不足のため、可能であれば継続した出向を受けたいことを希望する。 (助産師募集をしても応募がない) 慣れて貴重な人材となった時期に、終了となってしまった。 3. 出向先施設として、住宅・家電・寝具等の準備は必須である。 4. 出向助産師の意向もあり、分娩担当を優先した。 5. 移籍型出向のため、福利厚生面(給与・手当・休暇等)での充実を図ることができた。
出向助産師	1. 産婦の多くは、医療者からの支援をあまり必要とせず、自らの力で安産に向かっていた。助産師は、産婦がありのままの姿で分娩に臨めるよう関わる必要があることを実感した。 2. 全ての褥婦が自由に人工乳を使用できる状況であり、産褥1日目は児を預かり休息を促す、授乳室の存在など、当院の状況とは大きく異なっていた。その環境で様々な母子と関わり、褥婦の育児に対する考えを知り柔軟に対応すること、褥婦が安心して休息できるよう関わる必要があることが分かった。 3. 様々な物的・人的制約の中で最大限でできる医療・ケアを提供するべく尽力されており、またその分、搬送先としての大学病院とそのスタッフに対して、期待と信頼を寄せていた。周産期医療の最先端で勤務しているという自覚を持ち、日々研鑽していく必要があることを再認識できた。

## 【事例の詳細-2】

項目	内容
出向目的	応援出向
在籍形態	在籍型
出向期間	2か月 2018(平成30)年9月1日～9月30日・11月1日～11月30日
出向元施設	札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル
出向先施設	小樽協会病院
出向受入目的	分娩再開の応援
出向助産師経験年数	2年(他、看護師経験あり)
出向助産師の動機	小樽協会病院が産科を再開したが、助産師の人数が少なく、勤務状況が過酷であると情報を得、お世話になった病院の役に立ちたいと希望がある。
出向助産師の目標	1. 病棟助産師の業務を少しでも軽減することができる。 2. 産科再開後の病棟の様子を知る。
所属部署・診療科	産婦人科・小児科・外科・消化器内科
勤務形態	2交代
業務内容	1. 助産師業務(分娩介助、褥婦の介助・指導、新生児ケア) 2. 小児科、外科、消化器内科看護業務
分娩介助件数	0件
評 価	
出向元施設 (看護代表者)	産科病棟再開後1年経過し、助産師の人数が不足し、十分なケアと在籍しているスタッフへの過重労働の軽減という目的で出向してもらったが、趣旨とはずれた勤務形態であったと報告を受けた。本人の前職場であり窮地を救いたいという希望もあって出向したが、今回の出向が意義あったものか、考えてみたい。
出向先施設 (看護代表者)	1. 周産母子センター立ち上げ準備期間であり、分娩件数は月10件以内の制限付きのため、出向助産師の分娩介助は0件であった。 2. 出向助産師が元当院職員であったこともあり、混合病棟の業務が可能であり、大変心強かった。 3. 混合病棟経験の助産師であったため、月の半分を待機助産師として働く看護師長が休めることができた。 4. 事業開始前の勤務条件取り決め(夜勤体制含む)で、変更が生じた場合は、出向元・先施設の看護管理者間が出向助産師と共に調整し、三者にとり最良の方策を決定することが必要である。
出向助産師	助産業務に当たることはほとんどなく、業務軽減の助けをすることができなかった。しかし新人助産師の相談を聞くことや手順を一緒に確認することはできた。 混合病棟の中に産科が併設されている中、どのように助産師が業務をしているのか、病棟全体がどのように運営されているか知ることができた。

### 【事例の詳細-3】

項目	内容
出向目的	応援出向
在籍形態	在籍型
出向期間	3か月 2018(平成30)年11月1日～2019(平成31)年1月31日
出向元施設	旭川医科大学病院
出向先施設	小樽協会病院
出向受入目的	分娩再開の応援
出向助産師経験年数	11年
出向助産師の動機	1. アドバンス助産師認定資格取得にむけて 2. 他施設での医療の現状理解
出向助産師の目標	1. 正常分娩介助9例 2. 助産実践を体感し、地域のニーズを把握 3. 今後の自部署での教育や助言に反映 4. 大学病院での経験を活かし、出向先施設へ貢献
所属部署・診療科	産科・婦人科・小児科・外科・消化器内科の混合病棟
勤務形態	2交代、3交代
業務内容	1. 助産業務 2. 他科業務（小児科処置、高齢者日常生活ケア、診療補助業務、婦人科手術後ケア）
分娩介助件数	7件・緊急帝王切開1件
評価	
出向元施設 (看護代表者)	1. アドバンス助産師を目指していくにあたり、分娩介助例数が満たしていないこともあり、正常分娩の介助経験を通して助産実践能力の向上につなげたい。 2. 他施設の現状を知り、助産師として求められていることを考え実践することは、自身の成長に必要なと感じた。大学病院での産科・GCUの勤務経験のみであり、混合病棟で未経験の看護技術や処置を実践し、助産師としての経験値を上げる機会としたかった。
出向先施設 (看護代表者)	1. 産科病棟の体制整備が不十分な中、即戦力となった。また、管理上の課題について、アサーティブな意見をいただいた。自院看護職は知識、技術の学びとなった。 2. 大学病院では、経験しない混合病棟での勤務は、不安や戸惑いもあったと思うが他科の患者と接することで、助産師としての経験知が拡大したという評価があった。 3. 助産師にとって、混合病棟は不安の多い体制であり、助産師リクルートが進まない要因の一つである。しかし、少子高齢化が進む地域医療において産科医療を存続させるためには、避けられない現実である。出向制度を活用して、このような現実を、助産師や看護管理者に広く知って頂きたい。
出向助産師	1. 分娩件数は、概ね目標は達成できた。分娩自体は自立してケアを提供できたため、中心的な役割を果たせた。 2. 施設による違いに戸惑うこともあり、医師への連絡や呼ぶタイミングは出向先施設のスタッフに相談しつつ判断した。正常を逸脱した際は医師（産科・小児科）や助産師、看護師と協働チームとして安全に患者ケアができた。 3. 分娩がない時は褥婦に余裕を持って関わることができ、BFHではない施設での母乳育児への援助を学び、患者一人ひとりに寄り添ったケアが実践できた。 4. 婦人科と小児科、外科、消化器内科の混合病棟での経験は可能な範囲で実施した。検査や点滴・吸入作成などの小児科処置、日常生活援助を主体とした老人看護、死後の処置などを実践し、受け持ちとしての担当はしなかったが、他科のケアを機能別に担当できた。CVポートの穿刺など、未経験のまま部署内で指導していた技術を実践でき、今後の指導につなげることができる。 5. 助産師の1要員としての勤務はできた。施設の課題について客観的な視点で意見を出し、都度検討した。経験年数の浅い助産師とは、助産師不足から勤務交代時でしか関わることがなく、教育的視点での支援ができなかったことが残念であった。研修医や助産師、救急隊員を対象にNCPRのインストラクターを担当した。

## 【事例の詳細-4】

項目	内容
出向目的	応援出向
在籍形態	在籍型
出向期間	3か月 2019(平成31)年1月7日～3月30日
出向元施設	札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル
出向先施設	富良野協会病院
出向受入目的	地域偏在の是正（マンパワー不足）
出向助産師経験年数	8年（他、看護師経験あり）
出向助産師の動機	1. 助産師としてのスキルアップ 2. 管理職として学び
出向助産師の目標	1. 地域での産科の役割、地域（市町村）とのつながり、連携の仕方や病院と保健センターのつながりを知りたい。 2. 他院での業務マニュアルについて知りたい。 3. 総合病院での副主任の仕事、管理を見たい。 4. 新人教育の方針、勉強会の開催や評価方法を知りたい。
所属部署・診療科	産科・婦人科・泌尿器科・整形外科
勤務形態	2交代
業務内容	1. 地方病院の混合病棟で主任の役割 2. 混合病棟における看護ケア
分娩介助件数	2件
評 価	
出向元施設 （看護代表者）	1. 出向決定後、出向先施設に2名の入職があり、人材不足という課題は解消されていたようだ。 2. 業務は、マニュアルからの説明ではなく、OJTでスタッフにより若干ずれがあり戸惑ったようだ。 3. 中間管理職としての役割、地域の特性からの連携については、会議を通して学んでいた。 4. 他施設の看護を経験したことで、当院の良い所、課題が浮き彫りになり、戻って何をすべきかが見えたようだ。他院を経験することで一回り大きくなったのではと、日々の行動を見て思う。
出向先施設 （看護代表者）	1. 産科専門病院からの出向で急性期混合病棟での業務に不安は大きかったと思うが、高齢者看護の経験があり、業務への入り方がスムーズであった。 2. 患者への対応が丁寧、業務への取り組みも真摯であり、当院の若いスタッフの良きモデルとなっていた。 3. 事前準備としてスタッフへの周知が不十分なところがあり、最初の業務調整が十分でなかったことを反省する。 4. 出向元施設の業務内容も参考にさせてもらい業務改善につなげていきたい。 5. 助産師出向制度では、応援により、マンパワーの充実につながるとともに、お互いに知識も共有でき、今後も出向の機会が得られることを希望する。
出向助産師	1. 地域での周産期の在り方、役割については業務を行っていく中で少し知ることができた。保健センターとのつながりは、月1回開催している母子支援会議に参加し、周辺市町村の保健センターとの連携が必要であることが分かった。自院でも特定妊婦が増加し、保健センターとの連携が益々必要となるため、今後の連携方法を考えていきたい。 2. 看護学校の実習指導者会議に参加した。 3. 総合病院での副師長会議に参加し、新人教育について知ることができた。時期的に、プリセプターの評価、次年度のオリエンテーション、勉強会の組み立てなど参加し学ぶことができた。自院でも評価やオリエンテーションの組み立てなどに役立つことができる内容であった。

## II 事業実施結果 ー 2. 2019(令和元)年度

### 1 事業の運営

#### 1) 協議会の開催

協議会委員 9名		
役名	氏名	所属・役職名
会長	上田 順子	公益社団法人北海道看護協会 会長
委員	藤井 美穂	一般社団法人北海道医師会 常任理事
委員	齋藤 豪	北海道産婦人科医会 参与
委員	高室 典子	一般社団法人北海道助産師会 会長
委員	正岡 経子	札幌医科大学保健医療学部看護学科専攻科助産専攻 教授
委員	原口 眞紀子	旭川医科大学病院 副病院長・看護部長
委員	人見 嘉哲	北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 医療参事
委員	古川 秀明	北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課 看護政策担当課長
委員	小泉 由貴美	公益社団法人北海道看護協会 助産師職能理事

オブザーバー 3名		
所属・職	氏名	
北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 救急医療グループ 主査	山西 英正	
北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課 看護政策グループ 主幹	石谷 絵里	
北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課 看護政策グループ 主査	秋葉 絵美	

事務局 5名		
所属・職	氏名	
公益社団法人北海道看護協会 常務理事	佐々木 衿子	
事務局長	長尾 教雄	
ナースセンター課長	菅原 一美	
ナースバンク係長	丹尾 瑞恵	
(12月から3月配置) 助産師出向コーディネーター	小川原 知子	

#### 第1回北海道助産師出向支援事業協議会

- 日時 2019(令和元)年10月18日(金) 18:00~18:50
- 場所 大通看護研修会館
- 出席者 上田・高室・正岡・原口・古川・小泉 (欠席 藤井・齋藤・人見)
- オブザーバー 橋本・石谷・秋葉
- 内容 ①2018(平成30)年度事業報告  
②2019(令和元)年度 北海道助産師出向支援事業実施状況

#### 第2回北海道助産師出向支援事業協議会

- 日時 2020(令和2)年3月11日(水)
- 書面会議に変更 (新型コロナウイルスの感染拡大に伴い)
- 内容 ①2019(令和元)年度事業報告  
②2020(令和2年)年度事業計画(案)



## 2 施設への働きかけ

### ●専従コーディネーターの配置（12月～3月）

#### 1）出向元・出向先施設に支援要請

##### (1)マッチング調整のための意向確認

###### ① 意向調査実施

- ・調査期間 2020(令和2)年1月9日～1月31日
- ・調査対象 道内分娩取扱87施設
- ・回答数 57施設(回答率65.5%)、有効回答率100%
- ・調査結果 Ⅲ 【資料2】参照

※北海道看護協会 ナースセンターホームページ応援ナース等令和2年6月5日「令和元年度助産師出向に関する意向調査」結果報告に掲載済み

###### ② 施設訪問

苫小牧市立病院 2019(令和元)年12月27日  
出向先施設看護代表者・担当者、出向助産師と面談

#### 2）事業周知

協会ニュース・ホームページ等での周知

##### ①ホームページでの周知

- ・事業実績の掲載（通年掲載継続）

##### ②協会ニュースでの紹介

- ・2019(平成31)年度4月号掲載  
平成30年度北海道助産師出向支援事業報告会報告

#### 3）報告会・意見交換会の開催

##### (1)目的

助産師出向の実際と成果の報告を行い、事業の理解を深め、助産師出向支援事業の更なる発展を目指す。

##### (2)開催日時

2020(令和2)年3月7日(土) 13:35～15:20

##### (3)場所

公益社団法人北海道看護協会 2階研修室

##### (4)参加対象

- ① 産科または産婦人科を標榜し、分娩取扱医療機関の施設長・看護管理者・事務担当者
- ② 周産期医療に携わる助産師・看護師
- ③ 看護教育機関の教員および助産師・看護学生

##### (5)実践報告予定者

内 容	報 告 者	出向期間
出向元施設からの報告	手稲溪仁会病院 看護部長 田中 いずみ	2019(令和元)年 10月1日～12月31日
出向先施設からの報告	苫小牧市立病院 看護部次長 中村 由香	
出向助産師からの報告	手稲溪仁会病院 助産師 布施 早苗	

## (6)申込状況

- ・ 申込者：32名、参加施設数21施設
  - ・ 申込者内訳：看護職32名  
病院：29名、有床診療所：2名、看護師養成所：1名  
出向助産師報告：手稲溪仁会病院助産師
- ※新型コロナウイルスの感染拡大を懸念し、報告会・意見交換会は中止とした。

## (7)評価

- ・ 報告会・意見交換会は中止となったが、参加申込状況は、前年度と比較すると参加者・施設、新規参加施設共に増加した。今回、出向意向調査と同時に案内を送付したことが、新規参加施設に対し関心をもつきっかけになったと考える。
- ・ 開催時期は、出向が終了後に報告者の準備状況を考慮した。冬期間の開催ではあったが、申込者数は前年度を上回った。
- ・ 報告者から、報告資料を提出いただくため、今後事業に活用していきたい。

# 3 出向施設マッチング・出向支援

---

## 1) 出向元・出向先施設に支援要請

- 出向に関する意向を把握し、ニーズが高い施設を最優先に支援を行う。  
2018(平成30)年度施設訪問・電話訪問の結果を元に実施する。
- 出向先要請施設：5施設（下記、①出向施設間の調整 a～e 施設）

### (1)出向要請施設の調整

- ① 苫小牧市立病院  
出向先施設の喫緊な状況と地理的状況から、出向元施設で協力の意向を示していた手稲溪仁会病院に交渉し、出向成立となった。  
2019(令和元)年10月1日～12月31日（3か月間）
- ② 市立根室病院  
出向元施設の選定ができず、未就業助産師が地域応援ナースへの意向を示したため、「地域応援看護師確保対策事業（北海道委託事業）の地域応援ナース」に登録し、2019（令和元年）10月1日～2020（令和2）年3月31日の6か月就業となった。
- ③ 浦河赤十字病院  
管理者長期研修参加のため、応援出向要請。出向元施設の選定ができず、一度保留とした。  
ナースセンターに求職活動に来た助産師に「地域応援看護師確保対策事業（北海道委託事業）の地域応援ナース」に登録していただき、2020(令和2)年1月7日～3月31日の3か月就業となった。
- ④ 広域紋別病院  
12月から正職員が1名になるため、応援出向要請あり。  
出向元施設状況調査し、対応する。  
出向元施設の選定ができず、札幌市内の有床診療所閉院による退職者に交渉する。  
「地域応援看護師確保対策事業（北海道委託事業）の地域応援ナース」に登録し、翌年4月から就業予定となった。
- ⑤ A病院  
近隣施設に出向要請をしたが、協力は難しいと回答あり。  
e ナースセンターの活用、業務支所と連携する。

## 2) 出向施設間の調整

### (1)調整状況・結果

- ① 出向元施設：手稲溪仁会病院（協会から訪問）  
 出向先施設：苫小牧市立病院（協会に訪問）  
 ※出向期間：2019(令和元)年10月1日～12月31日
- ② 出向元施設：函館中央病院  
 出向先施設：調整中  
 ※出向先要請施設で優先度の高い施設とマッチングを行う。  
 候補：3施設  
 出向期間 2020(令和2)年4月～6月の開始を希望する。

### (2)マッチングの実施

1組マッチングし1組成立

#### ① 出向実績

No	第三次医療圏	出向目的	在籍形態	出向時期	期間	出向元施設	出向先施設	出向助産師数	
								助産師経験年数	
1	道央⇒道央	応援	在籍型	2019(令和元)年 10月1日～12月31日	3か月	手稲溪仁会病院	苫小牧市立病院	1名	7年

#### ② 地域応援ナース事業との調整

No	第三次医療圏	出向先施設	出向形態	出向時期	期間	居住地	助産師経験年数
1	道東	市立根室病院	地域応援	2019(令和元)年 10月1日～ 2020(令和2)年 3月31日	6か月	道央	26年
2	道央	浦河赤十字病院		2020(令和2)年 1月7日～3月31日	3か月	道央	19年 (看護師経験2年)
3	オホーツク	広域紋別病院		2020(令和2)年 4月13日～ 2021(令和3)年 4月12日	1年	オホーツク	10年 (看護師経験12年)

## 4 出向の詳細

### 【事例の詳細】

項目	内容
出向目的	応援出向
在籍形態	在籍型
出向期間	3か月 2019(令和元)年10月1日 ~ 12月31日
出向元施設	手稲溪仁会病院
出向先施設	苫小牧市立病院
出向受入目的	地域偏在の是正（マンパワー不足）
出向助産師経験年数	7年
出向助産師の動機	1. 助産師不足の施設の現状を知り、他地域の助産業務や、働き方を含め理解を深めたい。 2. 助産師としての経験、スキルアップをめざしたい。
出向助産師の目標	1. 他施設の助産業務の実情を把握する。 2. 出向支援事業に参加し、地域への貢献を通し、助産師としてのスキルアップを図る。
所属部署・診療科	産科・婦人科・内科
勤務形態	日勤
業務内容	1. 分娩介助（帝王切開時の看護、ベビーキャッチ） 2. 妊娠産褥期の看護 3. 新生児の看護（新生児室業務） （産科以外の他科における業務はない）
分娩介助件数	15件、帝王切開12件
評価	
出向元施設 （看護代表者）	1. 出向先施設での住環境を病院の近くに用意し、引っ越し等の細かな配慮もいただいた。出向元施設として、大きな安心材料であった。 2. 地域の分娩を守るには、この事業は非常に価値ある事業であると考えられる。しかし、この出向には看護部だけでなく双方の事務部門の対応が必要になるなど、派遣に伴う負担は決して少ないものではない。 3. 事業が安定して継続するには、医師と同様に構造的な対応が必要である。
出向先施設 （看護代表者）	1. 病院間での細かい取り決め等は、事務同士で連絡を取り合うことで大きな問題はなかった。 2. 日勤者が1名増となることによって、 ①若手助産師の育成に時間をかけられた。 ②助産師外来の担当を予定通り遂行できた。 ③看護学生の指導に時間をかけることができた。 3. お互いの施設の情報交換ができ、改善点などを再考できた。 （夜間緊急帝王切開時の対応、多忙時の支援体制、時間外削減に対する取り組み、新人・若手助産師の育成に関してなど） 4. 無理なく有給休暇を取得できた。
出向助産師	1. 助産師出向支援事業に参加し、助産師が不足している病院の現状と、限られた人材や資源の中での助産ケアを学ぶことができた。 2. 自身が出向し、日勤者が確保できたことで、2年目助産師のリーダー教育、助産師外来の人員確保、また病棟職員の年休消化達成につながり、支援事業に貢献できた。 3. 経験を積むことができ、今後の助産実践への自信につながった。

## II 事業実施結果 ー 3. 2020(令和2)年度

### 1 事業の運営

#### 1) 協議会の開催

協議会委員 9名		
役名	氏名	所属・役職名
会長	上田 順子	公益社団法人北海道看護協会 会長
委員	藤井 美穂	一般社団法人北海道医師会 常任理事
委員	齋藤 豪	北海道産婦人科医会 参与
委員	高室 典子	一般社団法人北海道助産師会 会長
委員	正岡 経子	札幌医科大学保健医療学部看護学科専攻科助産専攻 教授
委員	原口 眞紀子	旭川医科大学病院 副病院長・看護部長
委員	人見 嘉哲	北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 医療参事
委員	畑島 久雄	北海道保健福祉部地域医療推進局 医務薬務課長
委員	小泉 由貴美	公益社団法人北海道看護協会 助産師職能理事

オブザーバー 3名		
所属・職	氏名	
北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 救急医療グループ 主査	山西 英正	
北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課 課長補佐	菊地 みさき	
北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課 看護政策グループ 主査	秋葉 絵美	

事務局 4名		
所属・職	氏名	
公益社団法人北海道看護協会 常務理事	佐々木 衿子	
事務局長	長尾 教雄	
ナースセンター課長	菅原 一美	
ナースバンク係長	丹尾 瑞恵	

#### 第1回北海道助産師出向支援事業協議会

新型コロナウイルス感染症拡大およびそれに伴い事業を休止したため、中止（委託元北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課と協議）となる。

#### 第1回北海道助産師出向支援事業協議会

（※第1回を中止したため、第1回とする）

- 日時 2021(令和3)年1月25日(月) 18:00~19:00
- 場所 大通看護研修会館
- 出席者 上田・齋藤・正岡・人見・畑島・小泉（欠席 藤井・高室・原口）
- オブザーバー 菊地・秋葉
- 内容 ①2020(令和2)年度事業実施状況  
②2021(令和3)年度事業計画(案)

## 2 施設への働きかけ

---

### 1) 出向元・出向先施設に支援要請

#### (1)電話訪問・施設訪問等の実施（継続：通年）

前年度の情報（施設訪問・電話訪問）を元に、各施設に電話で聞き取りを実施予定だったが、未実施

#### (2)意向調査の実施

事業休止より、未実施

### 2) 事業周知

協会ニュース・ホームページ等で周知

#### ①ホームページでの周知

- ・事業実績の掲載（通年掲載継続）
- ・「令和元年度助産師出向に関する意向調査」結果報告 掲載

#### ②協会ニュースでの紹介

- ・報告会・出向事例の紹介  
2020(令和2)年度協会ニュース4月号内「ナースセンターだより」に出向事例を掲載
- ・「令和元年度助産師出向に関する意向調査」結果報告のホームページ掲載について、協会ニュースナースセンターだより内で周知を行う。

## 3 出向施設マッチング・出向支援

---

### 1) 出向元・出向先施設双方への調整

- (1)出向に関する意向を把握し、ニーズが高い施設を最優先に支援を行う。
- (2)出向要請に応じて、出向元・先施設の選出を行い、マッチング実施し、出向支援を行う。

●上記、(1)、(2)を事業計画していたが、新型コロナウイルス感染症の状況により、以下の結果となった。

#### ① 出向への意向等の整理を行う。

次年度以降の事業実施に向けて、令和元年度の意向調査を基に、各施設の意向や課題の整理を行った。

#### ② マッチングは、出向要請がなく、さらに事業休止となり未実施

#### ③ 地域応援看護師確保対策事業（地域応援ナース）の活用

- ・有床診療所閉院で退職した助産師が、広域紋別病院に地域応援ナースで就業する。

就業期間：2020(令和2)年4月13日～2021(令和3)年4月12日

### 2) 出向施設間の調整

#### (1)調整状況・結果

出向元施設：函館中央病院

出向要請施設：3施設（道央・道東・オホーツク）

※出向期間2020(令和2)年4月～6月として、出向先施設を選定し調整予定であったが、事業休止により、未実施

## II 事業実施結果 ー 4. 2021(令和3)年度

### 1 事業の運営

#### 1) 協議会の開催

協議会委員 9名 *交代委員2名 委嘱を行う		
役名	氏名	所属・役職名
会長	上田 順子	公益社団法人北海道看護協会 会長
委員	水谷 匡宏*	一般社団法人北海道医師会 常任理事
委員	齋藤 豪	北海道産婦人科医会 参与
委員	高室 典子	一般社団法人北海道助産師会 会長
委員	正岡 経子	札幌医科大学保健医療学部看護学科専攻科助産専攻 教授
委員	原口 真紀子	旭川医科大学病院 副病院長・看護部長
委員	人見 嘉哲	北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 医療参事
委員	田原 良秀*	北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課 看護政策担当課長
委員	小泉 由貴美	公益社団法人北海道看護協会 助産師職能理事

オブザーバー 3名	
所属・職	氏名
北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 救急医療グループ 主査	山西 英正
北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課 課長補佐	菊地 みさき
北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課 看護政策係 主査	齋藤 友美

事務局 4名	
所属・職	氏名
公益社団法人北海道看護協会 常務理事	佐々木 衿子
事務局長	長尾 教雄
ナースセンター課長	立花 枝美子
ナースバンク係長	丹尾 瑞恵

#### 第1回北海道助産師出向支援事業協議会

- 日時 2021(令和3)年10月
- 書面会議 (新型コロナウイルス感染症禍のため)
- 内容 ①2020(令和2)年度事業報告  
②2021(令和3)年度事業実施状況

#### 第2回北海道助産師出向支援事業協議会

- 日時 2022(令和4)年3月7日(月) 17:30~18:15
- Web会議 (新型コロナウイルス感染症禍のため)
- 出席者 上田・齋藤・高室・正岡・原口・人見・小泉 (欠席 水谷・田原)
- オブザーバー 上西・菊地・齋藤
- 内容 ①2021(令和3)年度事業実施状況  
②2022(令和4)年度事業計画(案)

## 2 施設への働きかけ

### 1) 出向元・出向先施設に支援要請

#### (1)電話訪問・施設訪問等の実施（継続：通年）

- ・2019(令和元)年度の意向調査を基に、施設の意向を確認および把握し、必要時協力の要請および支援を行う。
- ・出向を希望する助産師（施設所属）がいた際、本事業の説明および所属施設に状況確認をする。

#### (2)意向調査の実施

目的：a. 助産師出向の意向を確認する

b. 助産師の出向先、出向元施設のマッチングに向けた基礎資料とする

送付先：産科または産婦人科を標榜する分娩実施中の医療機関の看護代表者 82施設

結果：回収数：52施設（回収率：63.4%）

〈出向意向結果〉

出向元施設		出向先施設	
希望する	検討中	希望する	検討中
3	2	5	6

評価：コロナ禍においても出向を希望する施設はあるため、次年度も意向調査を行い、出向に関する意向を把握していく。

これまで出向へのニーズがある施設は絞られているため、まずはそれらの施設を中心に働きかけを行い、検討中の施設に対しても電話訪問をし、状況把握を行っていく。

### 2) 事業周知

協会ニュース・ホームページ等での周知

●ホームページでの周知

- ・事業実績の掲載（通年掲載継続）

●協会ニュースでの紹介

- ・2022(令和4)年度4月号掲載

2021(令和3)年度出向実績、報告会開催報告、出向元施設・出向先施設募集記事

### 3) 報告会・意見交換会の開催

#### (1)目的

助産師出向の実際と成果の報告を行い、事業の理解を深め、助産師出向支援事業の更なる発展を目指す。

#### (2)日時

2022(令和4)年3月16日(水) 13:25~15:50

#### (3)参加対象

- ① 産科または産婦人科を標榜し、分娩取扱医療機関の施設長・看護管理者・事務担当者
- ② 周産期医療に携わる助産師・看護師



#### (4)開催方法

Web (Zoomミーティング)

#### (5)参加状況

参加人数：31名

参加施設：14施設

札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル／釧路赤十字病院／倶知安厚生病院／砂川市立病院／王子総合病院／旭川厚生病院／札幌医科大学附属病院／広域紋別病院／市立札幌病院／富良野協会病院／函館中央病院／市立根室病院／手稲溪仁会病院／遠軽厚生病院

#### (6)実践報告者

	内 容	報 告 者	出向期間
①	出向先施設からの報告	遠軽厚生病院 看護部長 小林 順子	2021(令和3)年 11月11日～12月31日
	出向元施設からの報告	手稲溪仁会病院 看護師長 吉澤 恵	
	出向助産師からの報告	手稲溪仁会病院 助産師 松原 芽郁	
②	出向先施設からの報告	札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル 病棟副主任 中畑 夕美子	2021(令和3)年 10月18日～ 2022(令和4)年 1月31日
	出向元施設からの報告	札幌医科大学附属病院 看護部長 工藤 美幸	
	出向助産師からの報告	札幌医科大学附属病院 助産師 影山 百花	
③	出向先施設からの報告	五輪橋マタニティクリニック 看護師長 小林 由衣子	2022(令和4)年 1月1日～1月31日
	出向元施設からの報告	市立札幌病院 看護師長 川名 愛深	
	出向助産師からの報告	市立札幌病院 助産師 矢野 楓子	

#### (7)報告会の感想 (原文より)

- 助産師出向に関してはより具体的な状況を知ることができ、とても有意義な研修であったと思います。数年前に上司から出向の声をかけて頂き、出向について自分でも考える機会が増えました。当院においても助産師数の不足など抱えている課題はありますが、自分のキャリアを考えた時に、地域貢献という点で、とても興味・関心が増し、出向への期待を高めることができました。この先、出向が実現できるかどうか分かりませんが、常に助産師としての自分の役割（何ができるか、何がしたいか）を考えながら日々過ごしていきたいと思っています。
- 出向支援事業について理解が深まりました。出向先としてもある程度の分娩件数が必要であり、当院のような月3～5件程度の件数では助産師の教育やスキルアップには難しいと思いました。もう少し件数が多ければ…と思い残念に思います。
- 3者（出向元、出向先、出向者）の経験を聞くことができ、とても学習ができました。「当院なら…」と今後のイメージ作りにも役立てられました。病棟の現状、今すぐは難しいですが、成長の視点と地域貢献の視点をもち将来当院も参加してみたいと思いました。ありがとうございました。

#### (8)事業に関する意見・要望 (原文より)

- この出向支援事業は助産師の実践能力向上のためにも継続してほしいと思います。
- 興味のあることでもあり、北海道の安全・安心なお産を守る為には出向支援事業は必要なことであると思っています。  
長期では難しいですが、自身のスキルなど（様々なインストラクター）を他の地域でも活用してもらえる活動があると、地方ではなかなか研修にいけない方の支援のひとつになるのでは…と思いました。

## 出向先施設からの報告

www.\*\*\*.com



2022年3月16日  
JA北海道厚生連 遠軽厚生病院  
看護部長 小林順子

## 遠軽厚生病院の紹介

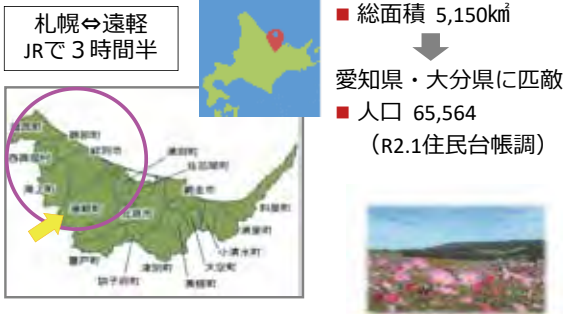
www.\*\*\*.com



- 稼働病床数：202床（一般202、感染2）
- 病床稼働率：69.8%
- 平均外来患者数：554人/日
- 分娩件数：88件  
※ 2020年度実績，COVID-19関連 4-6月入院制限・分娩休止あり
- 各種指定：地域センター病院、災害拠点病院、救急指定病院、へき地医療拠点病院、臨床研修病院（基幹型）  
地域周産期母子センター病院
- 併設施設：人工透析、健診センター、訪問看護ステーション  
従業員保育所（病児・夜間保育）

## 当院の医療圏—遠紋

www.\*\*\*.com



## 助産師不足の背景

www.\*\*\*.com

### 医師不足による分娩休止

- 2015年 分娩休止（常勤医退職）  
→ 助産師は退職 or 転勤
- 2016年 分娩再開（常勤医1-2名）  
→ 助産師確保困難

## 助産師の現状

www.\*\*\*.com

- 採用、進学もあり一時安定へ
- 2名が産休・育児休職に入り・・・

常勤	パート	常勤換算
4名	2名	5.6名

## 出向までの流れ

www.\*\*\*.com

### 2021年9月中旬

- ナースセンターより連絡

### 2021年10月上旬

- Web打ち合わせ  
(出向元、出向先関係者)  
・ 出向時期・・・11-12月（2か月）  
・ 事務員同席・・・給与等について  
(当院から出向元へ)

## 検討事項

www.\*\*\*.com

### 当院の勤務体制

- ・ 二交代（3人夜勤：助産1、看2）
- ・ 院外待機あり



- ・ 日勤のみ
- ・ 夜勤は見習い夜勤（4人夜勤）

## 検討事項

www.\*\*\*.com

- 出向元への業務報告  
月1回，出張扱い（交通費・日当支給）
- 被服：クリーニング込みリース  
シューズ貸与
- 勤務住宅  
看護師宿舎（ワンルームマンションtype）

## 住宅について

### ■ 看護師宿舎（ワンルームマンションtype）

※マンスリーマンション程度の準備

テレビ	BDプレーヤー	ごみ箱
冷蔵庫	ドライヤー	洗濯機
電子レンジ	ベッド	掃除機
電気ポット	布団一式	キッチン用具
炊飯器	カーテン	食器など

- 家賃及び水熱水費  
当院で負担

二重生活への  
影響を最小限に

## 病棟の準備

### ■ 働く環境・雰囲気

- ・見知らぬ土地、病院で勤務

↓

- ・積極的な声かけ

- オリエンテーション準備
- マニュアル類の見直し
- 当院の感染対策の説明準備 など・・・

## 出向期間について-受入施設として-

### ■ 開始前

- ・ 2か月
- ・ 環境に慣れた頃に  
終了を迎えるのでは

・見知らぬ土地、病院  
・積極的に声かけよう



### ■ 実際は

- ・ 初日から積極的に参加

・自分から輪に入る  
・自分から声をかけ  
・様々なことに積極的  
・真摯に取り組む  
・前向きに取り組む姿



・大きく刺激を受けた

## 業務の実際

### ■ 分娩件数10件弱/月

### ■ 分娩以外の業務が中心になるのでは...



- 勤務初日から産科対応
- 分娩対応：3件
- 産後うつ

## 勤務形態について

### ■ 当初日勤のみ

↓

### ■ オンコール当番（院外待機） 12月に3回実施

12月は分娩が少なく・・・

- ・混合病棟業務  
清潔の援助、移送、排泄介助など

## 来ていただいたことで

- 年次有給休暇 年5日取得義務  
→ 取得が促進

- オンコール対応  
12月に3回実施  
→ 助産師の業務負担が軽減

## 現在の当院

### ■ 引き続き厳しい状況が続いています...

常勤	パート	常勤換算
4名	2名	5.6名

ご清聴ありがとうございました





## 助産師出向支援事業報告会 ～出向元からの報告～

医療法人 湊仁会 手稲湊仁会病院  
看護師長 吉澤 恵

### 施設の概要

2021/4/1現在

項目	詳細
病床数	670床 (一般病床:570床、特定機能病床:100床) 急性期総合病院 DPC特定病院 1～3次救急
診療科	36科
手術件数	9,133件/年間 761.0件/月 (2019年度平均)
職員数	全職員1882名 医師:263名 (2020年4月1日時点) 【看護部職員】看護職:919名(助産師:44名)、看護助手:77名 (2020年4月1日時点)
病床稼働率	89.9% (2019年度平均)
平均在院日数	9.6日 (2019年度平均)
入院基本料	7:1
看護単位	24単位
看護提供体制	固定チームナーシング継続受け持ち制
勤務態勢	2交替

### “出向”を決めた管理者としての意図

#### 当院の助産師教育の現状

- ・教育機関としての役割 (新人助産師、助産実習3校の受け入れ)
- ・ハイリスク妊娠分娩管理が多く、ローリスク分娩担当の機会が少ない
- ・地域を視野に入れた助産活動への機会がない

↓

**自院でも、地域でも活躍できる  
助産師育成を目指して**

### “出向事業参加”への期待

- ・当院で経験の機会が少ない  
「分娩介助」への経験値の向上  
➡ **助産師として一番の“やりがい”を得る**
- ・自施設にとどまらない広い視野への広がり  
➡ **地域周産期を知る機会 + 「貢献」への喜びを、自身のモチベーションへ**
- ・自施設でも、地域でも活躍できる助産師育成を

### “出向事業参加”に向けてスタッフへの周知

全スタッフ

- ・当院で経験が積みづらい「分娩期ケア」の助産実践能力の向上を他院で実践
- ・地域へ、北海道内へ、(日本へ) 羽ばたく助産師
- ・地域周産期医療の現状と「貢献」することへの働きかけ

↓

**出向希望者の募集**

### “出向助産師”の選考の視点

- ・出向先の業務内容から、看護師・助産師として、両方の経験を積んでいるスタッフ
- ・自己のキャリアに対して積極的なスタッフ
- ・これからの病棟を担っていく若手リーダー層
- ・2ヶ月の出向期間を心身共に健康で遂行できるスタッフ

↓

**出向希望者の決定**

### “出向”前の準備

1. 出向中の自部署の勤務調整
2. 出向先との調整  
業務内容、休み、給料、保障  
住居に関する事、出向先の町の環境
3. 出向中の役割分担  
プリセプター役割を他のスタッフへ
4. 出向助産師が抱く不安への対応

### 出向期間中 管理者として大事にしたこと

1. 現場を守る！
  - ・予定している看護活動は継続 (オンライン教室、助産師エコー外来、2週間健診、インスタetc)
  - ・医師とも現状の共有
2. 出向している助産師への心理的サポート
  - ・定期的な連絡はメールで
  - ・出向先の看護管理者との共有

## “出向”後の共有

---

### 1. 助産師出向後の報告会

- ・ 部署内で多くのスタッフと共有  
(Zoomを用いたハイブリット形式)

### 2. 助産師出向の意義をスタッフへ伝える

- ・ 当院の現状とともに、出向することでの実践力の向上や新しいことへの挑戦を楽しむ  
「助産って楽しい！」リフレッシュの機会へ

9

## 出向事業に参加して ～管理者の視点から～

---

1. 出向者の分娩期の実践能力向上につなげることは難しかったが、視野が広がり自信につながった
2. 残ったスタッフは、創意工夫しながら看護活動を実践するようになった
3. 若手スタッフの実践機会が増えたことで、自信がつき例年より自立へのステップが早まった

10

# 北海道助産師出向支援事業 出向助産師 終了後報告

手稲溪仁会病院  
助産師 松原 芽郁



## 自己紹介



- ◆名前 松原 芽郁 (まつばら めい)
- ◆手稲溪仁会病院 助産師5年目
- ◆助産師リーダー IIレベル相当
- ◆分娩介助件数 経膈分娩 70件程度  
帝王切開 50件程度

- ◎2021年4月に新卒で手稲溪仁会病院へ入職。産科病棟へ配属となる。病棟業務、産科外来業務、集団教育などを経験。リーダー役割や新人教育（プリセプター）も担当。
- ◎リリーフ体制に富んでおり、他科での看護業務も経験あり
- ◎2020年に2ヶ月間、コロナ病棟へ配属され、成人看護を経験

## 出向の動機

- これまで学んだ知識や経験を生かし、他の病院でも助産師として働いてみたいという興味があったから。
- 助産師や看護師が不足している地域で、地域貢献として自分自身が役立てることがしたいと考えたから。

## 出向時の目標

- 1 可能な範囲で多くの分娩を介助したい。
- 2 助産業務に関わらず、自身が行える看護業務にも積極的に参加したい。



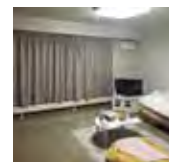
## 出向先病院の簡易概要

- ・名称 JA北海道厚生連 遠軽厚生病院
- ・配属病棟 4階西病棟
- ・助産師数 4名+
- ・病床数 産科8床 NICU2床  
整形・内科・外科 30床  
小児科 10床
- ・勤務体制 二交代勤務  
平日日勤（助産師1~2名体制）  
夜勤（助産師1名体制）  
院外待機 17:00~8:30 1名

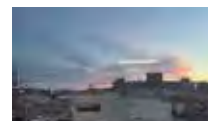


## 出向先の住環境

- ・名称 レジデンス厚生
- ・間取り 1LDK
- ・立地 病院より徒歩3分
- ・設置備品 テレビ、掃除機、洗濯機、洗濯物干し、電子レンジ  
電気ケトル、炊飯器、寝具一式、BDプレーヤー  
キッチン用具（フライパン、まな板、包丁、お玉、お皿等）
- ・家賃・光熱費 無料



毛布と日用品のみの持ち出しで生活することができ、大変、助かりました！



寮の窓から病院が見えます！

## 出向中の勤務状況

- ・基本的には常日勤（11月に夜勤1回あり）
- ・年休 月に1回ずつ取得
- ・月に1回出張日あり（交通費、出張費支給の帰礼日）
- ・その他、帰礼時には交通費の支給あり

◆札幌から離れた初めての土地に不安もありましたが、勤務体制や交通費の面でも札幌へ帰れる環境を整えていただきました。  
ストレスが少なく勤務することができました！

## 出向先での業務内容



【1日のスケジュール】

・妊婦・褥婦担当

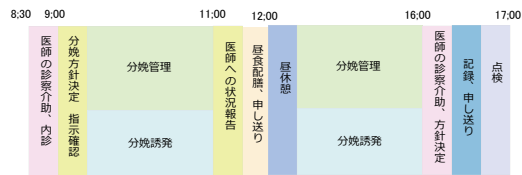
8:30	9:00	9:30	12:00	13:00	16:00	17:00
新生児の診察介助 指示受け	妊婦のNST装着 授乳指導	新生児の沐浴指導 【外来】 妊婦健診 保健指導	退院支援 母児同室指導	昼食配膳 昼休憩	授乳介助 退院指導 新生児の点滴投与、inout(バランス算出) 新生児の血糖測定 明日の新生児の採血準備 【金曜日 1か月健診】 産後健診 乳児健診の診察介助	産後 申す つ け し た 検 査

- ◆産科患者へのケアは、これまでの経験を活かして自立して実施することができた。
- ◆当院は産科とNICUが異なる病棟のため、新生児への点滴を使用した薬剤投与を初めて経験した。

## 出向先での業務内容

【1日のスケジュール】

### 分娩担当



◆出向先の医師、助産師と協力しながら分娩介助をさせていただきました。

## 出向先での業務内容

【1日のスケジュール】

### 整形・内科患者のケア



◆内科、整形外科患者への看護ケアは、当院のリリーフ業務で経験を活かしながら、出向先の看護師と共に実施した。

## 出向先の思い出写真



## 目標の評価

□1 可能な範囲で多くの分娩を介助したい

◎経陰分娩: 3例

◎帝王切開: 見学1例

◎介助に至らなかったが、分娩第1期も多く担当させていただいた

□2 助産業務に関わらず、自身が行える看護業務にも積極的に参加したい  
産科業務の合間を縫って、成人患者(内科)のケアにも積極的に参加し経験が積み重なった

## 出向を終えての感想

◆出向先の所属長やスタッフの皆様へ快く受け入れていただき、のびのびと働くことができました。

◆知らない土地、環境での勤務は助産師経験としても、人生経験としてもとても良い経験となった。

◆年代層の異なる助産師さんたちに囲まれて、助産師としても、人としても吸収するものが多かった。



## …出会いに感謝です…



双子の助産師さん♡



第6波前！歓迎会をしてくれました♪



剥き方を教わった活ホタテ



活たご焼き！美味！



### 札幌マタニティ・ウイメンズホスピタルの概要

- ◎診療科：産科・婦人科・小児科
- ◎病床数：51床
  - 3人部屋1室
  - 他全個室（特室2室 和室5室 他洋室）
- ◎LDR：4床（1室 畳部屋）
- ◎プレデリバリー（陣痛室）：5床

### 札幌マタニティ・ウイメンズホスピタルの概要

- ◎産婦人科医：13名（非常勤7名） ◎薬剤師：4名
- ◎麻酔科医：2名 ◎クラーク：5名
- ◎小児科医：8名（非常勤7名） ◎中材FA：4名
- ◎助産師：56名（パート8名） ◎フロアアシスタント：10名
- ◎看護師：19名
- ◎臨床検査技師：3名
- ◎放射線技師：4名
- ◎管理栄養士：4名

### 令和2年度実績

- ◎総分娩件数：1585件
  - 和痛分娩件数：153件
  - 帝王切開数：258件（16.5%）
- ◎婦人科手術：117件
- ◎母体搬送件数：41件
- ◎新生児搬送件数：4件

### 病院理念

心のふれあいを大切に

暖かい医療を求めて

### 看護部理念

病院理念を基盤に、患者様が満足する質の高い看護を提供できるように、専門職業人として、自己研鑽し、自らを高める姿勢を持ち続ける。

### 病棟看護体制

- ◎看護単位：1
- ◎入院管理基本料：10：1
- ◎ケア：チームケアナーシング
- ◎助産師：37名（産・育休3名）
- ◎看護師：13名
- ◎クラーク：2名
- ◎フロアアシスタント：10名
- ◎勤務体制：2交代制 夜勤5～6名 フロアアシスタント1名

### 病棟医師の体制

- ◎産婦人科医
  - 平日：2人体制（病棟業務＋手術対応）
  - 土日祝：1人体制
- ◎麻酔科医
  - 月・水・金：2人体制（月：和痛分娩2件）
  - 火・木：1人体制
- ◎小児科医
  - 1人体制



## 看護協会における出向の目的

- ① 応援目的出向：他施設の労働力需要に応える
- ② 研修目的出向：正常分娩の介助経験など助産実践能力強化
- ③ 指導目的出向：ハイリスク妊娠・分娩への対応など教育指導
- ④ 実習支援目的：助産学生の実習を支援・指導に貢献する

## 当院の出向実績

- ◎平成29年1月～6月：独立行政法人国立病院機構  
岩国医療センターへ1名出向
- ◎平成29年4月～6月：JA北海道厚生連  
遠軽厚生病院へ1名応援出向
- ◎平成30年9月・11月：社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院  
小樽協会病院へ1名応援出向
- ◎平成31年1月～3月：社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院  
富良野協会病院へ1名応援出向

## ◎平成27年～28年

北海道大学病院周産期センターより3名の助産師を  
分娩介助経験を目的とした研修として受け入れる。

- ・各3か月間
- ・1人30例が目標
- ・概ね目標を達成し研修終了

## 今回の出向受け入れの実際

◎期間：令和3年10月18日～令和4年1月31日

◎研修目的出向：目標分娩介助件数60件とし、アドバンス助産師の取得を目指す。（事前調査より）

◎事前提出

具体的な目標

札医大のキャリア開発目標シート

看護師ラダー評価シート

助産師ラダー評価シート

支援の程度と  
方向性の検討

## ◎支援内容

- ・相談窓口の明確化（病棟副主任）
- ・分娩技術テストの実施
- ・10例までは指導者が滅菌グローブを装着
- ・分娩介助チェック表での評価と振り返りの実施
- ・10例までは指導者がつき11例以降は分娩リーダーが支援
- ・月1回の病棟副主任との面談・振り返りの実施

## ◎行ったケア・業務（常日勤・土日祝日は公休）

- ・入院時のアナムネーゼ聴取
- ・分娩各期のケア
- ・分娩介助38件（うち和痛分娩9件）
- ・バースレビュー
- ・退院後の電話訪問

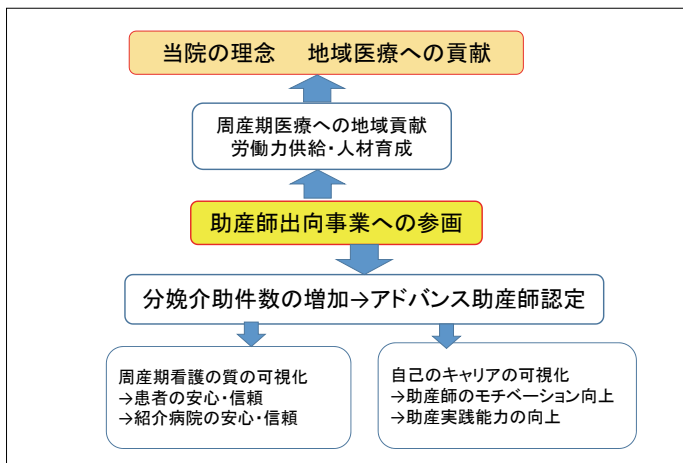
## 出向受け入れを終えて

- ◎1日1例を基本に、じっくりと産婦と向き合い関わっていったことで、アセスメントやケアの方向性、分娩進行予測など余裕をもって考えることができていた。
- ◎技術に関しては、分娩介助がコンスタントに行えたことで、反省点や課題を意識した介助が期間をあげずに実施できた。
- ◎自身の課題をクリアしようとする意識が高く、積極的な姿勢が当院のスタッフへの刺激になった。



ご清聴ありがとうございました






助産師出向実施マニュアル

	研修目的	地域貢献目的
対象職員	助産師ラダーⅡ 入職3～4年	助産師ラダーⅢ 入職6～10年以上
出向期間	1～6ヶ月	6ヶ月～1年
給与負担	当院	出向先施設
旅費負担	当院	出向先施設


助産師出向実施マニュアル

1. 対象者の選定
  - 4月 年度の出向予定者と希望時期の決定
  - 看護師長による目的の確認、動機づけ、目標設定
2. 出向先の決定
  - 北海道看護協会へマッチング依頼




助産師出向実施マニュアル

3. 出向先決定後
  - スケジュール作成し、出向先と共有
  - 出向予定者の情報提供
  - 出向先の情報収集(可能であれば事前見学)
  - 協定書(契約書)の締結
4. 出向中
  - 定期的に連絡をとり報告・相談を行う
5. 出向終了後
  - 報告書提出、評価



札幌マタニティ・ウイメンズホスピタルの皆様、  
丁寧に熱くご指導いただき、ありがとうございました。  
大きな学びを得ることができました。

北海道看護協会の担当者の皆様、マッチングや契約書作成等にご教示いただき、ありがとうございました。  
今後も助産師出向支援事業を活用させていただき、  
当院助産師の助産実践能力の向上と、地域貢献の  
理念実現を目指したいと思います。



# 出向報告

医療法人 明日葉会 札幌マタニティ・ウィメンズホスピタルにて

札幌医科大学附属病院 北6病棟  
影山百花

## 出向期間・場所・目的

- ・出向期間: 令和3年10月18日から令和4年1月31日(約3か月半)
- ・出向病院: 医療法人 明日葉会 札幌マタニティ・ウィメンズホスピタル
- ・出向目的: 研修(分娩介助技術の向上、分娩期の助産ケアの向上)

## 出向の動機

- ・入職して2年目の年度末の面談時、師長から出向の希望の確認
- ・期間、場所、未定→すぐには返答できなかった
- ・助産師としてこのままでよいのかという不安
- 分娩件数が少なく、3年目に入ろうとする中、分娩介助件数は20件程度
- 分娩介助に携わる機会が少なく、自身の分娩介助技術、助産ケア能力の未熟さを感じていた
- ・このような機会は二度とない→助産師として自分の技術を磨きたい

## 出向の動機

- ・COVID19の感染拡大もあり出向は実現しないのではと考えていた
- COVID19の濃厚接触者の分娩介助の経験
- 接触スタッフを最小限にするため、基本的に医師1人と助産師1人でケアを完結させる
- 直接介助者としてだけでなく、児娩後は児処置も実施
- 分娩期のケアの未熟さを痛感し、やはり技術の向上が必要と強く感じた

## 出向時の目標①

- ・目標分娩介助件数を60件とし、アドバンス助産師の取得を目指す
- ・母児にとって負担が最小限で、満足ができるケアの技術を磨く

- ①パースプランを産婦とともに確認し、可能な限り実現できるようにかかわる。
- ②第I期の産痛緩和、分娩促進のケアを積極的に行い、対象にあったケアのバリエーションを増やす。
- ③児の回旋の診断技術を磨き、意識的に回旋の評価を行えるようになる。

## 出向時の目標②

- ④分娩第II期の陣痛の評価を行い、産婦の状況に合わせた努責の誘導の技術を向上させる。
- ⑤会陰裂傷を防ぐための会陰保護技術、会陰の伸びの状況の評価の技術を向上させる。ゆっくり骨盤誘導線に沿って児を娩出する技術を磨く。
- ⑥パースレビューを積極的に行い産婦の心のケア、育児に前向きになれるよう関わる。自分が行ったケアを客観的に振り返り今後のケアに活かす。

## 出向の実際

- ・日勤のみで夜勤はなし
- ・実地指導者とともに目標の設定・振り返り実施
- ・分娩介助技術の技術チェック試験の実施
- ・10例までは指導者とともに分娩介助実施、チェックリストを用いて振り返り
- ・主な業務内容
- 分娩での入院、分娩介助、産後のパースレビュー、電話訪問

## 目標の評価①

- ①パースプランを産婦とともに確認し、可能な限り実現できるようにかかわる。
- 意図的なコミュニケーションを図り、産婦のニーズを引き出しながら状況に応じて、パースプランを調整し関わる事ができた。

## 目標の評価②

②第Ⅰ期の産痛緩和、分娩促進のケアを積極的に行い、対象にあったケアのバリエーションを増やす。

産痛緩和・分娩促進のケアの方法としてはバリエーションは限られており、バリエーションを増やすよりも、潜在的にある産婦のニーズを引き出し、分娩の三要素、休息やエネルギー・水分摂取状況、精神的状況をアセスメントし、必要な時期に遅れをとらずそのニーズの充足をできるように関わることが大切であると学んだ。ケアの介入が後手後手になる傾向にあるため、産婦とのコミュニケーションを通して、意図的に早期に助産診断を行っていくことが課題である。

## 目標の評価③

③児の回旋の診断技術を磨き、意識的に回旋の評価を行えるようになる。

分娩後の児の頭を触り、内診所見とのすり合わせを行うことで評価技術は格段に向上した。

回旋の評価ができることも大事だが、回旋異常になりそうな要因を考慮し、できるだけ回旋異常にならないように先を見て、体位の調整などができるように、そしてその必要性を産婦がわかるように共有し実践に移していけるように関わることが大切であると学んだ。そのために、胎児心拍モニターをつけるときから、基本技術のレオポルド触診法を用いて、児背の位置を確認し、心音聴取部位からの児背の向きを予測を行い早めの介入を徹底していきたい。

## 目標の評価④

④分娩Ⅱ期の陣痛の評価を行い、産婦の状況に合わせた努責の誘導の技術を向上させる。

児頭娩出時、肩娩出時の努責の微調整の誘導の技術は向上した。

一方で私は短息呼吸の促し方の語気が介助に必死で強くなってしまう場合がある。分娩第2期は産婦の苦痛が最も高まる時期であり、その際に産婦自身が落ちていて、助産師の声を聞き自身をコントロールできるためには、私たちが助産師のそれまでの関わり方が重要であると強く学んだ。

今後起こりうること、どういう理由でどのように対応すればよいのかを産婦とともに共有し信頼関係を築けるかわかり、声かけが重要であると感じ、今後も意識して継続していきたい。

## 目標の評価⑤

⑤会陰裂傷を防ぐための会陰保護技術、会陰の伸びの状況の評価の技術を向上させる。ゆっくり骨盤誘導線に沿って児を娩出する技術を磨く。

会陰の裂傷を防ぐための、右手と左手の調和した動きや、伸展の評価技術は向上した。

体幹娩出時の手の使い方を改良したことにより、手技が安定し、骨盤誘導線に沿った娩出技術が向上した。

会陰裂傷の程度も重要だが、児のよりよい状態での娩出が重要である。

急速遂嫁になった際の、医師との立ち居地やコミュニケーションが切開を入れた場合でも裂傷の程度に大きく影響することを学んだ。緊急時の医師とのコミュニケーションが今後の課題である。

## 出向の目標⑥

⑥パースレビューを積極的に行い産婦の心のケア、育児に前向きになれるよう関わる。自分が行ったケアを客観的に振り返り今後のケアに活かす。

分娩後の産婦の思いを直接お顔を見ながら、パースレビュー用紙を用いとともに振り返り、客観的に自身のケアを振り返ることができた。

## 学び・感想

・短期間での分娩助産(38件うち和痛9件)

→技術に自信が少し持てるようになり、視野が広がった

産婦さんのニーズを引き出し、助産診断を細かく行い、産婦と一緒に分娩を乗り越え、児の誕生を喜ぶことができる余裕が出てきた

・母児のもつ自然の力を実感

・命の誕生の瞬間に携わることのできる助産師としての喜びや楽しさと責任

・ハイリスク、ローリスク、設備や機能は施設によって異なるが、母児の安全をまもるためにすべきことは先を見据えたアセスメントにより明確になる

・母児の命を守る、そして人生のかけがえのない瞬間に携わる助産師として謙虚にかつ厳粛にケアに向き合い続けていきたい

## 学び・感想

・搬送元施設から搬送先へ転院するまでのケア

→搬送を受ける際の知識や技術を振り返り、危機的状況にある患者へのケアについて精神面のフォローも含めた対応技術の向上

・外回りや児処置としてケア→分娩時のアセスメントの重要性

・実地指導者として教育→分娩助産前の技術試験の実施

・誘発分娩目的の入院における頸管拡張などのスケジュール

## 出向の際に良かった点

・指導助産師の存在

→分娩業務のリーダーとして日々の私のケアや技術を見ながら目標を元にフィードバックをいただいた

・分娩助産件数のみにとらわれるだけでなく、基本的に1日1例

→一例一例を大切に振り返りながら次の分娩へ臨む、思考の整理につながり次のケアに活かすことができた

## 出向の際に困った点

- ・提出必須の書類の有無を自身で出向元病院に戻り確認し提出しなければならなかった
  - ・使用している物品の違いに慣れるのにやや時間を要した部分もあった
- 事前の施設見学

## さいごに

医療法人 明日葉会 札幌マタニティ・ウイメンズホスピタルの皆さま、この出向を支援して頂いた看護協会の皆さまに厚く感謝申し上げます。

札幌医科大学附属病院看護部、北6病棟の皆さま、この出向に携わってくださったすべての方々、そして分娩の際に関わらせていただいた母児の皆様に心より感謝いたします。

この経験をこれからの妊産褥婦のケアにつなげるのはもちろん、すこしでも自身の病棟でのケアや教育に還元していきたいと強く思います。

## 分娩件数

	2019年	2020年	2021年
和痛分娩	42件 (10.2%)	53件 (12.6%)	87件 (20.9%)
経膈分娩 (和痛分娩除く)	304件 (74.0%)	309件 (73.4%)	268件 (64.3%)
帝王切開術	65件 (15.8%)	59件 (14.0%)	62件 (14.9%)
計	411件 (100%)	421件 (100%)	417件 (100%)

## 出向先施設からの報告



五輪橋マタニティクリニック  
師長 小林 由衣子

## 出向助産師を受け入れるまでの経緯- 1

2021年7月

「北海道助産師出向支援事業に係る意向調査」の記入

2021年8～9月

北海道看護協会ナースセンター係長から、依頼の連絡を受け、院内で検討後、受託する

2021年11月

北海道看護協会から出向支援事業についての打ち合わせ  
出席者：北海道看護協会理事・ナースセンター係長  
当クリニック事務長・師長

## 出向助産師を受け入れるまでの経緯- 2

2021年12月

市立札幌病院と打ち合わせ

出向期間・勤務形態・医療事故時の対応・

出向先への研修費用・出向元施設の感染対策について

出席者：看護課長・看護担当課長・病棟看護師長・事務係員  
北海道看護協会ナースセンター課長・係長  
当クリニック事務長・師長・病棟主任

## 研修の実際

期間：2022年1月4日～31日・2月1日～28日 各1名ずつ  
月～金曜日 日勤のみの業務

方法：一緒にケアをする担当助産師を1名配置  
初日は、院内オリエンテーション、分娩見学  
翌日からは分娩担当としての業務

内容：経膈分娩予定の産婦ケアを優先。分娩予定者がいないときは、産後の母子ケア（入院中、2週間健診・1か月健診）、計画・CS分娩入院受けなど  
分娩介助例数は7例/1月・8例/2月

## ◆困ったこと

### 1 分娩介助技術の介入について

- ・到達度がわからず、どこまで任せていいのか、どこから介入した方がいいのか、判断に迷った。研修が始まってすぐに、自己課題や到達目標を具体的に確認しておくよかった
- ・キャリアのある人に対し、できていないことを伝えることや次につなげる指導が難しかった

## ◆困ったこと

### 2 研修の進め方について

- ・分娩件数を優先するのか、1例を最後までケアすることを優先するのかの意思を確認しておくよかった
- ・双方の分娩についての情報が不足だった。当クリニックの分娩がどういうものかわからない状況できた本人も、困ったのではないかと

## ◆良かったこと

### 1 自分たちの記録やケアを見直す機会となった

- ・産婦さんたちにすごく優しく親身な対応をしていただき、産婦は心強かったと思う
- ・記録の書き方や視点など勉強させてもらった
- ・自分の考え方やケアを見直したり、新しい気づきがあった
- ・楽しく仕事できた

### 2 マンパワーとして業務を依頼できた

- ・スタッフが少ない時や忙しい時には、積極的に仕事を探して自主的に動いてくれた。安心して任せでき、ありがたかった

## ◆今後の課題

- 1 受け入れに伴うスタッフの戸惑いを改善
- 2 受け入れ側も目標を明確化

今回、個々の助産師能力を見直し、高める機会を得られことを感謝いたします。  
今後は、ハイリスクの研修交流ができることを望みます。

ご清聴ありがとうございました。



# 北海道助産師出向支援 事業報告会

市立札幌病院 総合周産期母子医療センター  
9階東病棟  
看護師長 川名愛深

## 出向事業に参加した経緯 1

### 【背景】

出産数の減少（前年度より26%減少）  
帝王切開術率の上昇（分娩全体の40%）  
助産学生の受け入れ等（7か月間）

分娩介助件数の減少に伴い、1助産師が年間に介助できる例数が数例～10数例である。

連続した分娩介助経験ができないことに伴い、技術習得や助産ケアの学びが深める事が困難な状況

## 出向事業に参加した経緯 2

看護部長との面談時、産科病棟の背景と助産実践能力向上に向けた取り組みについて伝えた

そんなに産減っているの？  
出向はどう？

部長からの助言で、出向事業への参加検討を開始した

### 【課題】

・勤務形態 ・給与 ・人員配置等

看護部・総務課の支援を受け、研修環境を北海道看護協会ナースセンター担当者様と出向先施設と協議し、整える事ができた

## 出向事業に対する期待

### 【管理者からの期待】

- ・ローリスク分娩のケアを経験し、助産師としての役割を再認識して欲しい
- ・今までの自身の助産ケアを振り返る機会として欲しい
- ・今後、アドバンス助産師資格取得に向けた意識づけや準備をして欲しい

### 【出向するスタッフの期待】

- ・この後、本人から発表致します

## 評価

- ・自己の振り返り
- ・助産師としての役割を再認識
- ・自部署への新たな風

今回、出向に参加させて頂いた2名の助産師は、様々な課題を抱えていたが、助産師としての役割を再認識し、育成に対する考え方にも活用できる学びを得る事ができた

## 出向事業に参加する当院の課題

### 【課題】

- 出向先が市外であった場合
  - ・給与 ・勤務体制 ・出向期間
- 人員の確保
  - ・人員が不足している状況で、感染症病棟担当、助産師外来保健指導など、病棟以外での助産師活動の保証が困難

## 北海道助産師出向支援事業報告会

市立札幌病院 産科病棟  
助産師 矢野楓子

## アドバンス助産師申請への課題

- ・分娩介助技術
- ・発信力
- ・リーダーシップ

## 出向の話をもらってから的心情

### 期待

- ・ローリスク分娩介助への期待
- ・違う施設の分娩介助や環境を知れることへの期待

### 不安

- ・未経験の和痛分娩への不安
- ・人間関係、支援体制への不安
- ・自身・周囲の感染リスクにならないかという不安
- ・1か月間日勤となることへの体力的不安

## 出向施設での学び

(分娩介助7件、うち和痛分娩2件を経験)

- ・和痛分娩介助の難しさ
- ・分娩介助の手技
- ・ローリスク施設だからこそ求められる判断力・ケア能力
- ・各助産師の判断力、分娩介助への思い

## 今後の課題

- ・分娩介助技術の研鑽
- ・ハイリスク施設であることを踏まえたタイムリーな発信・リーダーシップ
- ・正常を逸脱しないための助産ケア
- ・産婦さんに寄り添った助産ケアの実践

北海道看護協会さま  
五輪橋マタニティークリニックさま

貴重な学びの機会をいただき  
ありがとうございました

### 3 出向施設マッチング・出向支援

#### 1) 出向元・出向先施設双方への調整

##### (1) マッチング調整のための意向確認

- 意向調査結果から出向に意向を示した8施設および年度内に検討中の2施設、また2021(令和2)年度意向を示していた1施設に状況確認・協力要請等(電話で直接実施)を行う。

	応援	研修目的
出向元施設 5施設	3施設	2施設
出向先施設 7施設	5施設	2施設

重複あり

#### 2) 出向施設間の調整

##### (1) マッチングの実施

- マッチング状況  
4組マッチングし、4組成立

##### (2) 出向実績

No	第三次医療圏	出向目的	在籍形態	出向時期	期間	出向元施設	出向先施設	出向助産師数	
								助産師数	助産師経験年数
1	道央⇒道央	研修	在籍型	2021(令和3)年 10月18日～ 2022(令和4)年 1月31日	3.5か月	札幌医科大学 附属病院	札幌マタニティ・ ウイメンズホスピタル	1名	3年
2	道央⇒ オホーツク	応援 研修	在籍型	2021(令和3)年 11月1日～12月31日	2か月	手稲溪仁会病院	遠軽厚生病院	1名	4年
3	道央⇒道央	研修	在籍型	2022(令和4)年 1月1日～1月31日	1か月	市立札幌病院	五輪橋マタニティ クリニック	1名	5年
4	道央⇒道央	研修	在籍型	2022(令和4)年 2月1日～2月28日	1か月	市立札幌病院	五輪橋マタニティ クリニック	1名	5年

## 4 出向の詳細

### 【事例の詳細-1】

項目	内容
出向目的	研修目的出向
在籍形態	在籍型
出向期間	3.5か月 2021(令和3)年10月18日 ~ 2022(令和4)年1月31日
出向元施設	札幌医科大学附属病院
出向先施設	札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル
出向助産師経験年数	3年
出向前の分娩件数	28件
助産師ラダー	レベルII
出向助産師の動機	自施設産科周産期科ではハイリスクの対象者が多く、経膈での分娩件数が少ない状況にある。そのため、ローリスクの対象において可能な限り分娩介助を行い、分娩介助技術のさらなる向上、分娩期の助産ケア技術のさらなる向上をめざしたい。
出向助産師の目標	母親にとって負担が最小限で、満足ができるケアの技術を向上させる。 1. バースプランを産婦とともに確認し、可能な限り実現できるように関わる。 2. 第I期の産痛緩和、分娩促進のケアを積極的に行い、対象にあったケアのバリエーションを増やす。 3. 児の回旋の診断技術を向上させ、意識的に回旋の評価を行えるようになる。 4. 分娩第II期の陣痛の評価を行い、産婦の状況に合わせた努責の誘導の技術を向上させる。 5. 会陰裂傷を防ぐための会陰保護技術、会陰の伸びの状況の評価技術を向上させる。ゆっくり骨盤誘導線に沿って児を娩出する技術を向上させる。 6. バースレビューを積極的に行い産婦の心のケア、育児に前向きになれるよう関わる。自身が行ったケアを客観的に振り返り今後のケアに活かす。 7. 目標分娩介助件数60件
所属部署・診療科	産科
勤務形態	日勤
研修内容	分娩介助、バースレビュー、産後電話訪問、緊急帝王切開対応
分娩介助件数	38件（うち和痛9件）
評 価	
出向元施設 (看護代表者)	1. 出向時の目標も概ね達成でき、本人のモチベーションが上がった。 2. 分娩介助件数は目標達成できなかったが、件数を増やすことよりも一件、一件の振り返りを重要視したためであり、学びの効果としては大きかった。 3. 事前に見学等させていただけると具体的にイメージでき、準備がしやすかったと考える。 4. 今回の出向経験を元に、助産師出向実施マニュアルを整備したので、今後も継続的に助産師出向を活用し、当院助産師の育成、地域貢献を実現したい。
出向先施設 (看護代表者)	1. 出向先施設のケアや体制について、忌憚のない意見交換ができれば良い。それが今後の看護に反映されて、良いものになっていくと思う。 2. 助産師のアイデンティティを育てるために、当院は協力していきたい。 3. 出向する場合、住居が2カ所になる場合のフォローを看護協会としてどのように補助してもらえるか（現在、病院持ち出し）。
出向助産師	1. 技術に自信が少し持てるようになり、視野が広がった。 産婦のニーズを引き出し、助産診断を細かく行い、産婦と一緒に分娩を乗り越え、児の誕生を喜ぶことができる余裕が出てきた。母児のもつ自然の力を実感できた。 2. ハイリスク、ローリスク、設備や機能は施設によって異なるが、母児の安全をまもるためにすべきことは先を見据えたアセスメントにより明確になる。 3. 搬送を受ける際の知識や技術を振り返り、危機的状況にある患者へのケアについて精神面のフォローも含めた対応技術の向上につながった。

## 【事例の詳細-2】

項目	内容
出向目的	1. 応援出向 2. 研修目的出向
在籍形態	在籍型
出向期間	2か月 2021(令和3)年11月1日 ~ 12月31日
出向元施設	手稲溪仁会病院
出向先施設	遠軽厚生病院
出向受入目的	地域偏在の是正(マンパワー不足)
出向助産師経験年数	4年
出向前の分娩件数	100件程度
助産師ラダー	レベルI
出向助産師の動機	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コロナ病棟への2か月間のリリーフ勤務を経験し、助産師として、周産期のことのみならず、他の領域の看護実践も習得しながら助産実践力を強化していきたい。</li> <li>2. 出向事業を通して、他の施設での助産業務や看護業務を経験し、自身の看護の質や知識と技術を向上させたい。</li> <li>3. 地域に根ざした病院での看護や助産の特徴や自院との違いを学びたい。</li> </ol>
出向助産師の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分でできることは、積極的に実践したい。</li> <li>2. 分娩介助は、出向先の手順やルールがわかれば、概ね1人でも可能で有り、できるだけ多くの介助を経験したい。</li> <li>3. 助産業務を優先的に実践したいが、助産にかかわらず看護業務、産科以外の業務にも積極的に参加したい。</li> </ol>
所属部署・診療科	産科・婦人科・内科・整形外科・小児科・NICU等
勤務形態	2交代
業務内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産科業務 分娩、帝王切開(見学)、褥婦ケア、新生児ケア、NICU児対応(光線療法等)、妊婦健診、1か月健診等</li> <li>2. 混合病棟業務 清拭、更衣、体位変換、オムツ交換、移乗・移送、排泄介助、食事介助等</li> </ol>
分娩介助件数	3件(帝王切開見学1件)
評価	
出向元施設 (看護代表者)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アドバンス助産師をめざす上で、必須要件である分娩介助数100件に到達するまで約6~7年要する。そのため、分娩介助技術を含めた助産実践能力の向上のために“助産師出向支援事業”は今後も活用していきたい活動の一つとして捉えている。</li> <li>2. 今回、分娩数が少ない施設であり、看護ケアも多く経験できたメリットはあった。</li> <li>3. 次年度は自院で経験できない助産実践に着眼しつつ地域貢献につながるように、引き続き参加を検討していく。</li> </ol>
出向先施設 (看護代表者)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産業務について ・分娩件数が少ないことから助産師以外の業務が多くなることを懸念したが、分娩を実施できた。</li> <li>2. オンコール(院外待機)について ・オンコール(院外待機)は想定していなかったが、本人からの申し出もあり、実施した。そのことで自院助産師の業務負担が軽減した。</li> <li>3. 全体をとおして ・ご本人が積極的に取り組んでくださり、開始直後から自施設の助産師の業務負担が軽減できた。また、取得義務年休も促進できた。 ・ご本人の積極的かつ真摯に取り組む姿勢に、当院のスタッフも大いに刺激を受けていた。</li> </ol>
出向助産師	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩期を中心に、産褥期のケア、新生児のケア、妊娠期のケアを、出向先施設のルールに則りながら自立して実施することができた。</li> <li>2. 分娩介助は、出向先施設の産科医師、助産師と協働しながら実施ができた。</li> <li>3. 産科業務を中心に行っていたが、産科患者不在時、少ない時には、出向先施設の看護師や助産師とともに成人患者のケアに参加することができた。</li> </ol>

### 【事例の詳細-3】

項目	内容
出向目的	研修目的出向
在籍形態	在籍型
出向期間	1か月 2022(令和4)年1月1日 ~ 1月31日
出向元施設	市立札幌病院
出向先施設	五輪橋マタニティクリニック
出向助産師経験年数	5年
出向前の分娩件数	89件
助産師ラダー	レベルⅡ
出向助産師の動機	自施設ではハイリスク分娩が多く、正常分娩が少ない。新採用者が入職すると、分娩介助を経験することが少なくなる、自信をもって後輩を指導することができていないことから、助産師として分娩期における技術・知識のスキルアップを図り、後輩育成に活かしたい。
出向助産師の目標	1. 20例程度の分娩介助を経験したい。 2. 他施設における分娩期ケアを学び、自身の分娩期ケアを振り返り、スキルアップにつなげる。
所属部署・診療科	産科・婦人科
勤務形態	日勤
研修内容	分娩介助、産後の母子ケア、入院中・退院後（2週間健診・1か月健診）の母子ケア
分娩介助件数	7件（うち2件、和痛分娩）
評価	
出向元施設 （看護代表者）	1. 他施設での経験は、今までの自分を振り返る機会となり、マタニティケア能力の向上だけではなく、専門的自律能力についても学びを深めることができた。 2. ローリスク分娩の経験を通して、助産師としての役割を再認識し、自身の課題を明確にすることができ、今後の役割発揮に期待できる研修となった。
出向先施設 （看護代表者）	1. 初めての受入れだったので、1か月の短い研修期間だったが、具体的な研修内容を確認しあう上で、出向助産師との顔合わせ、病棟見学やオリエンテーションなどは事前に行ったほうが、よかったのではないかと感じた。 2. スタッフがどこまで、どのように指導したらいいのかと戸惑うことが多かった。特に、分娩介助技術は相手の力量がわからず、「思わず手袋をはいて介入してしまったけど良かったのか、毎回同じ反省点があがってきていてアドバイスがうまくできない」との悩みが聞かれた。スタッフ間の連携も図れるような対応が必要だった。 3. 助産記録や意見交換などから、スタッフも気づきや成長になったこと、マンパワーの一員になったことは、受け入れたメリットであった。
出向助産師	1. 目標例数までは到達しなかったが、娩出力の判断や娩出力を促進する助産師のケアについて学びを深めることができた。また、児頭娩出・会陰保護・躯幹娩出の具体的な指導を受け、技術を習得することができた。 2. 助産実践能力のスキルアップにつなげる学びは、ローリスク分娩に関わる助産師として、分娩状況の判断や予測、他者とのコミュニケーション、発信力の大切さを実感した。

## 【事例の詳細-4】

項目	内容
出向目的	研修目的出向
在籍形態	在籍型
出向期間	1か月 2022(令和4)年2月1日～2月28日
出向元施設	市立札幌病院
出向先施設	五輪橋マタニティクリニック
出向助産師経験年数	5年
出向前の分娩件数	100件
助産師ラダー	レベルⅡ
出向助産師の動機	自施設では、ハイリスク分娩が多く、正常分娩が少ない。新採用者が入職すると、分娩介助を経験することが少なくなるため、今後、助産師としてスキルアップを図り、アドバンス助産師申請に必要な実施例数を経験するために出向を希望した。
出向助産師の目標	1. 研修期間で20例程度の分娩介助を経験したい。 2. ローリスクの分娩期ケアを通し、知識・技術の向上をめざす。
所属部署・診療科	産科・婦人科
勤務形態	日勤
研修内容	分娩介助、産後の母子ケア、入院中・退院後（2週間健診・1か月健診）の母子ケア
分娩介助件数	8件（うち3件和痛分娩）
評価	
出向元施設 （看護代表者）	1. 研修を通して、助産師としての責任やアセスメント能力、他者とのコミュニケーションの大切さについて学びを深めることができた。 2. ローリスクの分娩時ケアを経験し、助産師としてできることを再認識できたことにより、今後のケアにつなげられる学びを得た。
出向先施設 （看護代表者）	1. 研修受け入れ2例目であり、スタッフも確認しあいながら指導することができた。 2. 分娩介助技術は個々の力量や対応が違うため、難しかったという意見が多かった。しかし、試行錯誤しながらも研修生の課題達成に向けて関わったことは、指導する助産師の成長につながった。 3. 今回もスタッフや対象とのコミュニケーションは、良好に保たれていたこと、助産記録や意見交換などから気づきや成長になっていたこと、マンパワーの一員となってもらったことは、受け入れたメリットであった。
出向助産師	1. 目標例数までは到達しなかったが、微弱陣痛のアセスメントや陣痛促進ケアについて助産師の役割を学ぶことができた。 2. 助産実践能力のスキルアップにつなげる学びとして、分娩進行状況の判断、他者とのコミュニケーションや発信力の大切さを学んだ。

## II 事業実施結果 — 5. 2022(令和4)年度

### 1 事業の運営

#### 1) 協議会の開催

協議会委員 9名 *交代委員3名 委嘱を行う		
役名	氏名	所属・役職名
会長	高橋 久美子*	公益社団法人北海道看護協会 会長
委員	水谷 匡 宏	一般社団法人北海道医師会 常任理事
委員	齋藤 豪	北海道産婦人科医会 参与
委員	高室 典子	一般社団法人北海道助産師会 会長
委員	正岡 経子	札幌医科大学保健医療学部看護学科専攻科助産専攻 教授
委員	阿部 明美*	旭川医科大学病院 看護師長
委員	大原 宰*	北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 医療参事
委員	田原 良秀	北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課 看護政策担当課長
委員	小泉 由貴美	公益社団法人北海道看護協会 助産師職能理事

オブザーバー 3名	
所属・職	氏名
北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 救急医療係 主査	堂河内 香織
北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課 課長補佐	菊地 みさき
北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課 看護政策係 主査	齋藤 友美

事務局 4名	
所属・職	氏名
公益社団法人北海道看護協会 常務理事	佐々木 衿子
事務局長	長尾 教雄
ナースセンター課長	立花 枝美子
ナースバンク係	丹尾 瑞恵

#### 第1回北海道助産師出向支援事業協議会

- 日時 2022(令和4)年10月12日(水) 18:00~18:40
- 場所 大通看護研修会館
- 出席者 高橋・齋藤・正岡・阿部・大原・田原・小泉 (欠席 水谷・高室)
- オブザーバー 堂河内・菊地・齋藤
- 内容 ①協議会会長選任:北海道看護協会 会長 高橋委員に決定  
②2021(令和3)年度事業報告  
③2022(令和4)年度事業実施状況

#### 第2回北海道助産師出向支援事業協議会

- 日時 2023(令和5)年3月15日(水) 18:00~18:50
- 場所 大通看護研修会館
- 出席者 高橋・水谷・高室・阿部・大原・菊地(代理)・小泉(欠席 齋藤・正岡・田原)
- オブザーバー 堂河内・齋藤
- 内容 ①2022(令和4)年度事業実施状況  
②2023(令和5)年度事業計画(案)



## 2 施設への働きかけ

### 1) 出向元・出向先施設に支援要請

#### (1)電話訪問・施設訪問等の実施(継続：通年)

- ・意向調査を基に、施設の意向を確認し、協力要請および支援を行う。
- ・出向元施設の開拓を行う。

#### (2)意向調査の実施

目的：a. 助産師出向の意向を確認する

b. 助産師の出向先、出向元施設のマッチングに向けた基礎資料とする

送付先：産科または産婦人科を標榜する分娩実施中の医療機関の看護代表者 79施設

結果：回収数：60施設（回収率：75.9%） ※2021(令和3)年度回収率：63.4%

〈出向意向結果〉

出向元施設		出向先施設	
希望する	検討中	希望する	検討中
3	4	5	3

評価：近年、出向元施設は「研修目的出向」の意向が増加してきた。

また、出向先施設は「応援出向」の意向が多いことは変わらない。

コロナ禍においても、年間計画に出向を組み入れる施設があり、計画的に実施する傾向がある。次年度も意向調査を行い、出向に関する意向を把握していく。

検討中と意向を示した施設に対しても交渉を行うことで、マッチングに繋がるケースがあり、状況把握を行っていくことが重要である。

### 2) 事業周知

協会ニュース・ホームページ等での周知

#### ①ホームページでの周知

- ・事業実績の掲載（通年掲載継続）

#### ②協会ニュースでの紹介

2022(令和4)年度4月号掲載

- ・2021(令和3)年度報告会開催報告

- ・出向元・出向先施設募集案内

2022(令和4)年度1月号掲載

- ・出向実績の紹介

- ・出向元施設：札幌医科大学附属病院

- ・出向先施設：市立稚内病院

### 3) 報告会・意見交換会の開催

マッチングが成立し、3例中2例が2月末の終了であったため、次年(2023年)度6月開催で企画する。

### 3 出向施設マッチング・出向支援

#### 1) 出向元・出向先施設双方への調整

##### (1) マッチング調整のための意向確認

- 意向調査結果から出向に意向（検討中含む）を示した出向要件や出向時期でマッチングの可能性があると判断した11施設に、状況確認・協力要請等（電話で直接実施）を実施する。

	応援	研修目的
出向元施設 5施設	2施設	3施設
出向先施設 6施設	4施設	2施設

重複あり

#### 2) 出向施設間の調整

##### (1) マッチングの実施

- マッチング状況  
3組マッチングし、3組成立

##### (2) 出向実績

No	第三次医療圏	出向目的	在籍形態	出向時期	期間	出向元施設	出向先施設	出向助産師数
								助産師経験年数
1	道央⇒道北	研修 応援	在籍型	2022(令和4)年 10月1日～11月30日	2か月	札幌医科大学 附属病院	市立稚内病院	1名 12年 ※看護師経験あり
2	道央⇒道東	応援	在籍型	2023(令和5)年 1月1日～2月28日	2か月	手稲溪仁会病院	市立根室病院	1名 11年
3	道央⇒道央	研修	在籍型	2023(令和5)年 2月1日～2月28日	1か月	市立札幌病院	五輪橋マタニティ クリニック	1名 9年

## 4 出向の詳細

### 【事例の詳細-1】

項目	内容
出向目的	1. 応援出向 2. 研修目的出向
在籍形態	在籍型
出向期間	2か月 2022(令和4)年10月1日 ~ 11月30日
出向元施設	札幌医科大学附属病院
出向先施設	市立稚内病院
出向前の分娩件数	61件
出向助産師経験年数	12年(他、看護師経験あり)
助産師ラダー	院内ラダーⅢ
出向助産師の動機	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在、年間に1~2例の分娩介助に留まっている現状である。指導係で新人等の分娩指導を行う上で、経験が不十分と感じることも多いため分娩介助の経験を研鑽し、分娩介助の技術向上に努めたい。</li> <li>2. 自施設での経験を活かし、出向先施設で応援出向として貢献する。</li> </ol>
出向助産師の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常と異常の予測的判断をもち助産ケアで解決可能な問題は積極的に解決できる。</li> <li>2. 正常から逸脱について予測し、必要な医療介入を明確にすることができる。</li> <li>3. 分娩介助時、努責のコントロール技術の向上ができて会陰裂傷を最小限にすることができる</li> <li>4. フリースタイル分娩介助が自立して行うことができる。</li> <li>5. 分娩介助15例を目標としたい。</li> <li>6. バースプランに沿った分娩時ケアを行い、産婦が分娩に満足できているかバースレビューで評価する。</li> </ol>
所属部署・診療科	産科・婦人科・小児科・NICU・内科
勤務形態	日勤
業務内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病棟の助産業務を実施</li> <li>2. 妊娠期の看護、ケア</li> <li>3. 自然分娩、誘発分娩、分娩後の褥婦の状態観察</li> <li>4. 帝王切開、術後の看護</li> </ol>
分娩介助件数	8件
評価	
出向元施設 (看護代表者)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今年度の出向は地域貢献も目的としており、給与等を出向先施設に負担いただき、両施設事務部門のご尽力をいただいた。</li> <li>2. 出向中は出向先施設のご配慮、ご教示をいただき、出向職員にとって大きな学びとなった。</li> <li>3. 自院は助産師キャリアパスに出向を組み入れて2年になる。研修目的、地域貢献目的いずれの場合も出向によりステップアップすることができ、モチベーションも顕著に上がっている。</li> <li>4. 今後も助産師のキャリア支援に出向事業を活用したい。</li> </ol>
出向先施設 (看護代表者)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 10月は分娩件数が少なかったため夜勤帯時間のお産には、時間外での対応とした。</li> <li>2. 出向助産師は、2か月という短期間ではあったが有意義な助産ケアを磨くことができたと評価され、病棟側もお産に協力できて良かった。</li> </ol>
出向助産師	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩が進まない事例で積極的にベッドから離れて歩行する、座位や立位で過ごすなどで分娩を進めるケアを実施できた。</li> <li>2. 急速遂娩の基準が自施設とは異なり戸惑いはあったが、指導助産師と協働することで新生児仮死で出生する児はいなかった。また分娩時異常出血時の対応は指示を待つだけでなく素早く対応できた。</li> <li>3. 努責の要不要についてアセスメントすることでコントロールをして裂傷範囲を小さくすることはできた。</li> <li>4. 排臨前までの側臥位・四つん這いなど産婦の好む体位で過ごすケアはできた。</li> <li>5. 分娩介助は8例</li> <li>6. 全ての分娩でバースプランを把握して可能な限り実施、バースレビューでは概ね希望通りだったと評価を受けた。</li> </ol>

【事例の詳細-2】

項目	内容
出向目的	応援出向
在籍形態	在籍型
出向期間	2か月 2023(令和5)年1月1日 ~ 2月28日
出向元施設	手稲溪仁会病院
出向先施設	市立根室病院
出向受入目的	地域偏在の是正(マンパワー不足)
出向助産師経験年数	11年
出向前の分娩件数	200件程度
助産師ラダー	アドバンス助産師
出向助産師の動機	<ol style="list-style-type: none"> <li>主任としての役割から、地域で活躍する助産師の役割について学び、スキルアップしたい。</li> <li>他院での助産実践を通して更なる助産実践能力の向上に努めたい。</li> </ol>
出向助産師の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>出向先は地域で唯一の周産期医療を担う病院であり、地域医療の実情と病院の役割及び混合病棟で勤務する助産師と看護師との協働について理解する。</li> <li>他施設での助産業務を通し、自院との違いを学びながら、更なる助産実践能力向上に努め、自院での役割発揮につなげていく。</li> <li>地域に根ざした病院や混合病棟を管轄する管理者の看護管理のあり方を理解し、今後の看護管理実践の一助とする。</li> </ol>
所属部署・診療科	産科・婦人科・小児科・内科・眼科・地域包括ケア
勤務形態	日勤、夜間待機
業務内容	産婦人科外来業務、診察介助、母乳育児外来見学 分娩介助
分娩介助件数	0件(分娩外回り2件)
評 価	
出向元施設 (看護代表者)	<ol style="list-style-type: none"> <li>助産師出向の機会を、助産実践能力を深め、看護管理者としての視野を広げられる機会と捉え主体的に臨むことで、客観的に自施設の取り組みや自己を見つめ直し学びや自信を得る機会となっていた。</li> <li>地域での暮らし・地域医療を直に感じ、これまでに無い経験を得ることで、助産師として、女性として、自己の成長の機会となった。</li> <li>助産師出向の経験を活かし、広い視野でスタッフの教育体制を整え推し進めてくれることを期待する。</li> </ol>
出向先施設 (看護代表者)	<ol style="list-style-type: none"> <li>分娩件数が少なく、ほとんど外来業務を中心に活動となった。</li> <li>人員不足もあり、病棟の勤務を経験することはできなかった。</li> <li>分娩の介助に携わり、外来業務も対応していただき、職員の休暇を確保することができ、大変感謝している。</li> <li>残念な点は、この時期の分娩件数が極端に少なく、現場としては分娩件数が多い時期に応援いただければと要望があった。</li> <li>時期的にも1月早々の忙しい時期に、出向していただき感謝している。</li> </ol>
出向助産師	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護を通して患者のニーズを知ることでより地域医療を担う病院の役割と使命が理解できた。主に外来業務であったため混合病棟については学ぶ機会が少なかったが、外来内での助産師と看護師の連携や地域との連携を理解できた。</li> <li>今までの経験を活かし助産師として求められる役割を発揮できたことが自信につながった。今回の経験を自院の助産師と共有し学びを共有していく。</li> <li>今回、混合病棟の管理について学ぶ機会が得られなかったが、地域の実情と地域医療を担う病院の役割が理解できたため、今後の看護管理の一助としていく</li> </ol>

【事例の詳細-3】

項目	内容
出向目的	研修目的出向
在籍形態	在籍型
出向期間	1か月 2023(令和5)年2月1日～2月28日
出向元施設	市立札幌病院
出向先施設	五輪橋マタニティクリニック
出向助産師経験年数	9年
助産師ラダー	レベルⅢ(アドバンス助産師取得)
出向前の分娩件数	300件
出向助産師の動機	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループリーダーとして後輩助産師の分娩指導やサポートに当たる場面が多く、自身の実践能力不足や経験不足を実感していた。</li> <li>2. 教育的目的から、分娩担当は、新採用者やラダーⅡ以下の助産師が担当する事が多いため、前年度、自身の経膈分娩介助件数は5件であり、分娩を担当する機会が少なかった。総合周産期母子医療センターの助産師として役割を遂行できるよう、助産実践能力の向上に努めたい。</li> <li>3. 一次施設における出向の経験を、今後の助産師外来や院内助産の取り組みに活かしたい。</li> </ol>
出向助産師の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩介助技術において、技術の見直しを行い、修正と新たな技術獲得ができる(会陰裂傷を最小限にできる)。</li> <li>2. 分娩進行のアセスメントを強化する。</li> <li>3. 少ないメンバーの中で、リーダーシップを図りながら、適切な対応が実施できる。</li> <li>4. 一次施設における、助産ケアを学ぶ。</li> </ol>
所属部署・診療科	産科・婦人科
勤務形態	日勤
研修内容	分娩介助(正常分娩・誘発分娩・和痛分娩)、外来保健指導、入院中の妊婦のケア、産後の母子のケア、退院後の2週間健診、1か月健診のケアの見学・実施
分娩介助件数	11件(間接介助3件)
評価	
出向元施設 (看護代表者)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設役割の違いによる助産師に求められる役割、専門性の発揮について学ぶことができた。</li> <li>2. 産婦の産む力を信じ、助産師として最大限その力が発揮できるよう支援する事の大切さを経験でき、当院における分娩期のケアを考え直すきっかけとなった。</li> <li>3. 今後は、タスクシェア/シフトを踏まえ、助産師の専門性発揮が期待される場面において、リーダーシップを発揮し、母子とその家族に対するケアの質向上に取り組んでくれることを期待する。</li> </ol>
出向先施設 (看護代表者)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研修前に本人の目標と行動計画を確認したことで、共通認識することができ、対応することができた。</li> <li>2. 研修中感じた疑問点を表出してくれたことで、スタッフは自分の手技やケアだけでなく、他の施設の対応を学ぶ機会になった。特に、産後の異常出血時の対応は、判断が早く周囲の状況を見極めた対応が勉強になったという意見が多かった。</li> <li>3. 技術的なことはすでにできており、研修先が当院でよかったのかというスタッフの意見があった。しかし、本人から、助産師の専門性について考えることができたと評価され、施設役割の違いによる助産師に求められる役割について学ぶことができたと思う。</li> </ol>
出向助産師	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩介助毎に分娩進行に沿った技術で介助できているかフィードバックを得て技術を修正した。会陰裂傷を最小限にする技術は、助産師から方法や意識している点を教わり、間接介助で娩出のコントロールを見て学び技術習得に努めた。</li> <li>2. アセスメントは適切であると他者評価を受け、自己の助産診断の確認や評価ができたため目標達成とする。</li> <li>3. 異常に備えてLDRの環境調整や物品の準備を行い、メンバーの一員として産後出血など緊急時の対応を実施することができた。分娩介助者としてのリーダーシップについては、産婦のケアや医師との協働、間接介助への依頼だけでなく、家族への説明や配慮など全てを把握し分娩管理できることが課題として明らかとなった。</li> </ol>

## II 事業実施結果 ー 6. 5年間の事業評価と今後について

### 1 事業評価

事業開始から2019(令和元)年度までと2021(令和3)年度を比較すると、応援出向から研修目的出向へニーズが変化してきた。現在も助産師の地域偏在は解消されていないため、応援出向のニーズは続いているものの、現状は出向元施設の研修目的出向のニーズは高まっている。その理由は、少子高齢化による分娩数の減少とハイリスク妊娠・分娩の増加など、周産期医療を取り巻く環境の変化が顕著となり、総合周産期母子医療センター等で正常分娩の研鑽が困難になってきた背景がある。そのため、研修目的出向のニーズが高まり、出向元施設のニーズが多様になっている。

例年、意向調査を実施し、さらに施設訪問や電話訪問を行い、施設の意向の把握を行っている。応援出向の意向がある出向先施設に対して、マッチング可能な出向元施設に限りがあるため、マッチング・出向に繋げることが困難な状況がある。応援出向に対応できる出向元施設開拓が必要であるが、助産師人材不足は、どの地域・施設にもあり得ることで、応援出向で協力いただける出向元施設の人員調整が課題となっている。意向調査で出向を検討中と意向を示した施設に対して、出向に協力いただくよう交渉を行うことで、マッチングに繋がるケースがあり、密に連絡をとり状況把握を行っていくことが重要である。5年間で2名の専従コーディネーターを各半年間配置した際は、電話訪問・施設訪問を適時実施できたため、その時々施設の意向を把握し、施設の意向に沿うことができた。

新型コロナウイルス感染症拡大のため、2020(令和2)年度は、事業を中止したが、5年間で報告会を2回開催し、事業周知と理解を促し、応援実績の成果の報告から出向の実際を知り、出向の意向や関心を示す施設が徐々に増えてきた。また、数回出向を経験した施設は、出向による成果を得たことで、年間計画に出向を組み入れたため、継続して出向事業に参加いただくよう働きかけを行い、協力を得ていくことができた。過去に一度でも出向を実施した施設間では、調整等が円滑にできるため、新たな意向があった際は、継続して実施していくことができた。

5年間の出向実績は12件で、応援出向が5件、研修目的出向が4件、応援出向と研修目的出向を兼ねた出向が3件だった。応援出向を希望する出向先施設に対して、対応できる出向元施設が少ないが、研修目的出向で意向を示した出向元施設に対し、出向助産師のラダーや経歴等から応援出向での出向が可能かを確認し、受け入れ先となる出向先施設の状況と照らし合わせ、柔軟に対応しマッチングに繋げることができた。出向助産師の分娩介助件数が目標に達成しない場合でも、他院における周産期看護や他科業務を学ぶ機会、また双方の施設の看護業務の情報交換の機会となる等、出向助産師の研鑽と出向元・先施設にこれらが還元される機会となっていた。

### 2 今後について

これまでの出向施設の準備状況等から、出向助産師の選定や計画的に出向準備を進めていくためには、年度始めに各施設の出向の意向を明らかにし、効率的にマッチングを進めていくことが重要である。また、地域偏在解消に向けて、年間平均3件の出向実績では、意向を示した全ての施設の要請に応えることができていない。関心はあるが出向を躊躇している施設に対しては、課題解決と体制整備に向けて支援を行い、さらに新規施設の開拓が必要と考える。これらを計画的に進め調整機能を強化するために、専従コーディネーターを年間通して配置することが望ましい。また、今後の周産期医療を見据え、各施設の周産期医療・看護が維持継続していくために、代替要員確保や出向に関わる経費の確保・見直し等の課題解決を図っていきたい。



資 料





## 助産師出向に関する意向調査

【施設名 \_\_\_\_\_ 様】

\*回答項目の該当する番号等に○又は数値を記入下さい。

### I 施設の概要

#### 1 施設機能について

- (1) 総合周産期母子医療センター
- (2) 地域周産期母子医療センター
- (3) 特定機能周産期母子医療センター
- (4) 一般病院・診療所

#### 2 産科病床数について

- (1) 産科単科 ( \_\_\_\_\_ 床)
- (2) 混合病棟 (産科 \_\_\_\_\_ 床)
  - 内訳) 産科以外の診療科と病床数
  - ①NICU \_\_\_\_\_ 床 ②GCU \_\_\_\_\_ 床 ③MFICU \_\_\_\_\_ 床
  - ④ \_\_\_\_\_ 床 ⑤ \_\_\_\_\_ 床

#### 3 産科のある病棟・外来の職員数について

- (1) 産科医師数 名 (内 常勤 \_\_\_\_\_ 名 非常勤 \_\_\_\_\_ 名)
- (2) 質問2で(1)産科単科の場合
 

		病棟		外来	
助産師	常勤 名 非常勤 名	常勤 名 非常勤 名	非常勤 名	非常勤 名	非常勤 名
看護師	常勤 名 非常勤 名	常勤 名 非常勤 名	非常勤 名	非常勤 名	非常勤 名
准看護師	常勤 名 非常勤 名	常勤 名 非常勤 名	非常勤 名	非常勤 名	非常勤 名

#### (3) 質問2で(2)混合病棟の場合

- |      |            | 病棟         |       | 外来(産科外来のみ) |       |
|------|------------|------------|-------|------------|-------|
| 助産師  | 常勤 名 非常勤 名 | 常勤 名 非常勤 名 | 非常勤 名 | 非常勤 名      | 非常勤 名 |
| 看護師  | 常勤 名 非常勤 名 | 常勤 名 非常勤 名 | 非常勤 名 | 非常勤 名      | 非常勤 名 |
| 准看護師 | 常勤 名 非常勤 名 | 常勤 名 非常勤 名 | 非常勤 名 | 非常勤 名      | 非常勤 名 |
- (4) 病棟・外来一元管理の場合 ※病棟と外来を一元看護単位とし、看護職員は外来と病棟をローテーションする
 

助産師	常勤 名 非常勤 名
看護師	常勤 名 非常勤 名
准看護師	常勤 名 非常勤 名

- (5) 夜勤人数 名 (内 助産師 \_\_\_\_\_ 名)

#### 4 2018年度分娩件数と帝王切開率について

- (1) 分娩件数 ( \_\_\_\_\_ ) 件
- (2) 帝王切開術率 ( \_\_\_\_\_ ) %

#### 5 助産師が主体的なケアを提供する院内助産システムについて

- (1) 院内助産の有無 ① 有 ( \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 開設)
- ② 無 ( \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 開設が困難な理由 (複数回答可))
  - Ⓐ マンパワー不足
  - Ⓑ 助産師の実践能力不足
  - Ⓒ 医師からの理解が得られない
  - Ⓓ 設備的要因
  - Ⓔ 経営的要因
  - Ⓕ その他 ( \_\_\_\_\_ )
- ③ 準備中 ( \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月頃 開設)

※院内助産：緊急時の対応が可能な医療機関において、助産師が妊産婦とその家族の意向を尊重しながら妊娠から産褥1か月頃まで、正常・異常の判断を行い、助産ケアを提供する体制をいう。

- (2) 助産師外来の有無 ① 有 ( \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 開設)
- ② 無 ( \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月頃 開設が困難な理由 (複数回答可))
  - Ⓐ マンパワー不足
  - Ⓑ 助産師の実践能力不足
  - Ⓒ 医師からの理解が得られない
  - Ⓓ 設備的要因
  - Ⓔ 経営的要因
  - Ⓕ その他 ( \_\_\_\_\_ )
- ③ 準備中 ( \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月頃 開設)

※助産師外来：緊急時の対応が可能な医療機関において、助産師が産科医師と役割分担をし、妊産婦とその家族の意向を尊重しながら、健康診査や保健指導を行うことをいう。

#### 6 2019年度の学生実習の受け入れについて

- (1) 受け入れている → 学校数 ( \_\_\_\_\_ ) 校 助産師学生数 ( \_\_\_\_\_ ) 名 看護学生数 ( \_\_\_\_\_ ) 名
- (2) 受け入れていない → 2020年度以降 ① 予定あり ② 予定なし

#### 7 アドバンス助産師と貴施設助産師の申請について

- (1) アドバンス助産師 ① いる ( \_\_\_\_\_ ) 人 ・ ② いない ( \_\_\_\_\_ ) 人
- (2) 今後の申請予定 ① あり ・ ② なし

**8 助産実践能力の習熟に係る課題について**

- (1) 課題がある → その内容 (複数回答可)
- ① 分娩介助件数の不足
  - ② 新生児健康診査件数の不足
  - ③ 妊産期健康診査件数の不足
  - ④ 産褥期健康診査件数の不足
  - ⑤ プライマリーケースの経験件数の不足
  - ⑥ 「集団指導」「母親学級・両親学級」「緊急時の対応」についての習得が難しい
  - ⑦ 必須研修の機会不足
  - ⑧ その他 ( )
- (2) 課題はない

**II 助産師出向について**

**1 助産師出向支援事業について**

- (1) 知っている (2) 知らない

**III 助産師を出向させること（出向元施設）について**

**1 貴院においての他施設へ助産師を出向させた経験、出向形態について**

- (1) 出向させたことがある → ①在籍型出向 } **設問2と3**へお進みください  
 ②移籍型出向 (転籍)  
 ③その他 ( ) → **設問4**へお進みください
- (2) 出向させたことがない

**2 出向の目的は何でしたか。(複数回答可)**

- (1) 助産実践能力向上 (人材育成)
- (2) 地域連携 (他施設との交流)
- (3) 人事交流
- (4) モチベーションの維持・向上
- (5) 離職防止
- (6) 産科病棟再開に向けた助産実践の確認 (経験)
- (7) 地域偏在の是正 (マンパワー不足)
- (8) 地域貢献
- (9) 被災地支援
- (10) 教育的支援
- (11) その他 ( )

**3 出向させる際、どのような条件を整えましたか。(複数回答可)**

(体制づくり)

- (1) マンパワーを確保した
- (2) 出向の目的を明確にした
- (3) 助産師の意向を確認した
- (4) 組織内の理解と合意を得た

(出向先との調整)

- (5) 受け入れ先の目的等 (組織内の合意、教育、支援体制がある) を確認した
- (6) 出向期間を明確にした
- (7) 業務内容 (助産業務のみ、混合病棟において他科の看護業務の有無とその内容) を確認した

(出向助産師の処遇)

- (8) 出向助産師が処遇等で不利益を受けないよう (給与が減額されない、退職扱いにならない、退職金の計算時出向期間中も勤務年数が継続される、共済積立貯金等が継続されるなど) に調整した
- (9) 出向中の経験が出向元の人事評価に反映されるようにした
- (10) 受け入れ先への通勤に関わる費用や転居に伴う場合の住居の確保に配慮した
- (11) 賠償責任保険加入にするなど医療安全 (インシデント・アクシデント発生時の対応の保障) に関する対応を行った
- (12) その他 ( )

**6 助産師を志向させる理由は何か。(複数回答可)**

- (1) 助産実践能力向上 (人材育成)
- (2) 地域連携 (他施設との交流)
- (3) 人事交流
- (4) モチベーションの維持・向上
- (5) 離職防止
- (6) 産科病棟再開に向けた助産実践の確認 (経験)
- (7) 地域偏在の是正 (マンパワー不足)
- (8) 地域貢献
- (9) 被災地支援
- (10) 教育的支援
- (11) その他 ( )

**7 出向について「今後検討予定」の方に伺います。どのような条件が整えば自施設の助産師を  
出向させることが可能ですか。(複数回答可)**

- (1) マンパワーを確保すること
  - (2) 出向の目的を明確にすること
  - (3) 助産師の意向を確認すること
  - (4) 組織内の理解と合意を得ること
- (出向先との調整)**
- (5) 受け入れ先の目的等 (組織内の合意、教育、支援体制がある) の確認
  - (6) 出向期間を明確にすること
  - (7) 業務内容 (助産業務のみ、混合病棟において他科の看護業務の有無とその内容) を確認すること

**(出向助産師の処遇)**

- (8) 出向助産師が処遇等で不利益を受けないよう (給与が減額されない、退職扱いにならない、退職金の計算時出向期間中も勤務年数が継続される、共済積立貯金等が継続されるなど) に調整すること
- (9) 出向中の経験が出向元の人事評価に反映されること
- (10) 受け入れ先への通勤に関わる費用や転居に伴う場合の住居の確保をすること
- (11) 賠償責任保険加入にするなど医療安全 (インシデント・アクシデント発生時の対応の保障) に関する対応を行うこと
- (12) その他 ( )

**8 検討していく上で必要な情報提供のご希望がありましたら、お知らせください。**

- (1) あ )
- (2) な )

**9 出向させる予定が「ない」方に伺います。その理由をお知らせください。(複数回答可)**

- (1) マンパワー不足のため出向させざる助産師が少ない
- (2) 出向の対象となる助産師が少ない
- (3) 出向を希望する助産師が少ない
- (4) 組織内の理解と合意を得ることが難しい
- (5) 出向助産師が処遇等で不利益を被る心配がある
- (6) 助産師出向支援導入事業に係る情報の不足
- (7) その他 ( )

**IV 助産師を自施設に受け入れることについて**

**1 出向助産師を受け入れた経験、出向の形態について**

- (1) 受け入れたことがある → ①在籍型出向  
②移籍型出向 (転籍)  
③その他 ( )
- (2) 受け入れたことがない → 設問 4 と 5 へお進みください

**2 出向を受け入れた目的は何でしたか。(複数回答可)**

- (1) 助産実践能力向上 (人材育成)
- (2) 地域連携 (他施設との交流)
- (3) 人事交流
- (4) モチベーションの維持・向上
- (5) 離職防止
- (6) 産科病棟再開に向けた助産実践の確認 (経験)
- (7) 地域偏在の是正 (マンパワー不足)
- (8) 地域貢献
- (9) 被災地支援
- (10) 教育的支援
- (11) その他 ( )

**3 出向を受け入れた際、どのような条件を整えましたか。(複数回答可)**

- (1) マンパワーを確保した
  - (2) 出向の目的を明確にした
  - (3) 助産師の意向を確認した
  - (4) 組織内の理解と合意を得た
- (出向元との調整)**
- (5) 出向元の目的等 (組織内の合意、教育、支援体制がある) を確認した
  - (6) 出向期間を明確にした
  - (7) 業務内容 (助産業務のみ、混合病棟において他科の看護業務の有無とその内容) を確認した

#### 8 出向の受け入れについて「今後検討予定」の方に伺います。

- 受け入れを可能にする要件をお知らせください。(複数回答可)**
- (8) 出向助産師が処遇等で不利益を受けないように調整した
  - (9) 出向中の経験が出向元の人事評価に反映されるようにした
  - (10) 通勤費用や転居に伴う場合の住居の確保に配慮した
  - (11) 賠償責任保険加入にするなど医療安全（インシデント・アクシデント発生時の対応の保障）に  
関する対応を行った
  - (12) その他（ ）

- (1) 出向の目的による
- (2) 助産師の意向があること
- (3) 組織内の理解と合意があること
- (4) 出向元の目的が明確であり 出向助産師の希望要件を相互調整できること
- (5) 出向期間による（可能な期間： ）
- (6) その他（ ）

#### 9 検討していく上で必要な情報提供のご希望がありましたら、お知らせください。

- (1) あり  
→その内容（ ）
- (2) なし

#### 10 出向を受け入れる予定が「ない」方に伺います。その理由をお知らせください。(複数回答可)

- (1) 分俵の取り扱いがない
- (2) 分俵はあるが、助産師主体の分俵ではない
- (3) 受け入れについて施設内の合意が形成されていない
- (4) 受け入れに必要な助産師業務に関するマニュアルが整備されていない
- (5) 受け入れのメリットがない
- (6) 助産師出向支援導入事業に係る情報の不足
- (7) その他（ ）

#### V その他

助産師の出向に関して、ご意見・ご要望等ご自由にお書きください。

#### (出向助産師の処遇)

- (8) 出向助産師が処遇等で不利益を受けないように調整した
- (9) 出向中の経験が出向元の人事評価に反映されるようにした
- (10) 通勤費用や転居に伴う場合の住居の確保に配慮した
- (11) 賠償責任保険加入にするなど医療安全（インシデント・アクシデント発生時の対応の保障）に  
関する対応を行った
- (12) その他（ ）

#### 4 受け入れたことが「ない」方に伺います。その理由をお知らせください (複数回答可)

- (1) 分俵の取り扱いがない
- (2) 分俵はあるが、助産師主体の分俵ではない
- (3) 受け入れについて施設内の合意が形成されていない
- (4) 受け入れに必要な助産師業務に関するマニュアルが整備されていない
- (5) 受け入れのメリットがない
- (6) 助産師出向支援導入事業に係る情報の不足
- (7) その他（ ）

#### 5 受け入れを可能にする要件をお知らせください。(複数回答可)

- (1) 出向の目的による
- (2) 助産師の意向があること
- (3) 組織内の理解と合意があること
- (4) 出向元の目的が明確であり 出向助産師の希望要件を相互調整できること
- (5) 出向期間による（可能な期間： ）
- (6) その他（ ）

#### 6 今後、他施設から助産師の出向を受け入れる予定がありますか。

- (1) ある・準備中 → 設問7へお進みください
- (2) 今後検討予定 → 設問8と9へお進みください
- (3) ない → 設問10へお進みください

#### 7 出向を受け入れる目的は何ですか。(複数回答可)

- (1) 助産実践能力向上（人材育成）
- (2) 地域連携（他施設との交流）
- (3) 人事交流
- (4) モチベーションの維持・向上
- (5) 離職防止
- (6) 産科病棟再開に向けた助産実践の確認（経験）
- (7) 地域偏在の是正（マンパワー不足）
- (8) 地域貢献
- (9) 被災地支援
- (10) 教育的支援
- (11) その他（ ）

今後、助産師出向支援事業を進めるにあたり、調査結果の詳細（施設名入り）を記した資料を新たに作成し、情報の共有、マッチング等を行う予定でいます。施設名の公表に関しまして、同意をいただけますと幸いです。

### 同意確認書

助産師出向に関する意向調査結果資料に施設名の公表を

同意する ・ 同意しない  (どちらかに○をお願いいたします。)

施設名 \_\_\_\_\_

ご協力ありがとうございました。本調査の結果については、ご回答いただいた看護代表者様に情報提供する事としておりますので、結果の送付先、連絡先をお知らせください。

#### 【連絡先】

住 所 : 〒

電話番号 :

Eメール :

担当者 : (職・氏名)

令和元年度助産師出向に関する意向調査報告(概要版)

I 令和元年度助産師出向に関する意向調査の概要

- 1 目的  
 (1)分娩取扱施設における周産期医療機能及び診療科の状況、分娩件数、助産師就業状況、助産師学  
 生の実習受入状況、助産師出向ニーズ等を把握する。  
 (2)助産師の出向先、出向元施設のマッチングに向けた基礎資料とする。

- 2 調査対象  
 道内の産科・産婦人科を標榜する分娩実施中の医療機関 87 施設 (内訳は下表を参照)

- 3 調査期間  
 令和2年1月9日～1月31日

- 4 調査内容  
 分娩取扱施設における分娩件数、助産師就業状況、助産師出向の意向等

- 5 調査方法  
 郵送による自記式アンケート  
 回答者は、各医療機関の看護管理者に依頼

- 6 回収状況  
 (1) 回収数：57 施設 (回収率 65.5%)  
 (2) 有効回答数：57 施設 (有効回答率 100.0%)

II 結果

回答施設数と施設名掲載数が一致しないことがある。

I 施設の概要

1 施設機能別回答状況

区分	対象施設	回答施設	回答率 (%)
総合周産期母子医療センター	6	5	83.3
地域周産期母子医療センター	28	26	92.9
特定機能周産期母子医療センター	1	0	0.0
一般病院	21	15	71.4
有床診療所	31	11	35.5
合計	87	57	65.6

(1) 道内における分娩を取り扱う産科医療機関

①調査対象施設と回答施設の属性

表 2 第 3 次医療圏域別・施設機能別回答状況

区分	道南	道央	道北	十勝	釧路・根室	オホーツク	合計	割合 (%)
調査対象施設	7	28	8	3	5	5	56	
有床診療所	2	23	5		1	31		
病院	6	21	8	2	5	4	46	82.1
有床診療所	1	8	2			0	11	35.5
合計	7	29	10	2	5	4	57	
割合	77.8	56.9	76.9	66.7	100.0	66.7	65.5	

調査対象 87 施設は、病院 56 施設、診療所 31 施設で、第 3 次医療圏域別 (以下「圏域」とする) については表 2 に示した。回答率は、全体で対象施設 87 施設のうち回答施設は 57 施設 (65.5%) だった。回答施設数は、病院が対象 56 施設のうち 46 施設 (82.1%)、有床診療所は対象 31 施設のうち 11 施設 (35.5%) だった。

(2) 産科病床数について

①産科病床数

区分	施設	割合 (%)	最大	最小	平均	病棟種別
産科単科	21	36.8	51	10	21.1	婦人科、小児科、内科、循環器科、消化器科、泌尿器科、産科、小児科、整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科
混合病棟	36	63.2	57	2	24.4	婦人科、小児科、内科、循環器科、消化器科、泌尿器科、産科、小児科、整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科
合計	57					

病棟編成では、産科単科は 21 施設 (36.8%)、混合病棟は 36 施設 (63.2%) であり、混合病棟は産科単科の約 1.7 倍だった。

(3) 産科のある病棟・外来の職員数について

①産科医師数

雇用形態	合計	最大	最小	平均	無回答
常勤	203	12	0	3.6	1
非常勤	44.8	10	0	1.4	1

表 5 夜勤人数 152 名 (うち助産師 43 名) n=57 (施設)

	合計	産科単科	混合病棟	最大	最小	平均	無回答
1 勤務当たりの夜勤人数	177	56	121	5	1	3.2	2
2 うち助産師数	111	48	63	5	0	2.0	2

(4) 2018 年度分娩状況

①2018 年度分娩件数と帝王切開率

表 6 分娩件数と帝王切開率 n=56 (施設)

分娩件数	最小件数	最高件数	平均件数
	3 件	1906 件	405 件
帝王切開率 <th>最小割合</th> <th>最高割合</th> <th>平均割合</th>	最小割合	最高割合	平均割合
	0.0%	57.3%	20.9%

\*無回答：1 施設

②分娩数・助産師数

1) 分娩数 (病院・有床診療所)

表 7 医療圏域別分娩数 n=57 (施設)

区分	道南	道央	道北	十勝	釧路・根室	オホーツク	合計	割合 (%)
病院	1,576	10,328	3,110	1,374	1,906	872	19,166	82.8
有床診療所	403	3,216	350			0	3,969	17.2
合計	1,979	13,544	3,460	1,374	1,906	872	23,135	
割合 (%)	8.6	58.5	15.0	5.9	8.2	3.8	100.0	

2) 助産師数 (病院・有床診療所)

表 8 医療圏域別助産師数 n=969 (人)

区分	道南	道央	道北	十勝	釧路・根室	オホーツク	合計	割合 (%)
病院	76	481	153	35	66	45	856	89.3
有床診療所	8	88	7	0	0	0	103	10.7
合計	84	569	160	35	66	45	959	
割合	8.6	59.3	16.7	3.6	6.9	4.7	100.0	

3) 助産師1人あたりの経歴分岐介助数

表9 医療圏域別助産師1人あたりの経歴分岐介助数

区分	n=17,971 (件数)									
	道南	道央	道北	十勝	釧路・根室	オホーツク	全体	道全体		
病院助産師1人あたりの経歴分岐介助数	18.5	17.3	17.7	35.9	25.8	20.5	19.4	21.5		
有床診療所助産師1人あたりの経歴分岐介助数	53.7	37.9	38.3					38.7		
*助産師1人あたりの経歴分岐介助数=分岐数÷(分岐数×帝王切開術率) / 助産師数										

\*助産師1人あたりの経歴分岐介助数=分岐数÷(分岐数×帝王切開術率) / 助産師数  
(帝王切開術は助産師の分岐介助にならないため、分岐総数より帝王切開術数を引いて経歴分岐数を算出した。分岐数には医師が分岐介助した件数を含む)

\*分岐件数、帝王切開率、助産師数に関する全ての項目に回答があった施設のみ集計

助産師1人あたりの経歴分岐介助数は、全体でみると21.5件であるが、病院別・有床診療所別でみると「病院助産師」が19.4件、「有床診療所の助産師」では38.7件と約2.0倍であった。病院助産師では「十勝圏の病院助産師」が最大35.9件、「道央圏の病院助産師」が最小17.3件と約2.1倍であり、有床診療所の助産師では、「道南圏の有床診療所助産師」が最大53.7件、「道央圏の有床診療所助産師」が最小37.9件と約1.4倍であった。最も差があったのは、「道南圏の有床診療所助産師」の最大53.7件、「道央圏の病院助産師」の最小17.3件であった。

(5) 助産師が主体的なケアを提供する院内助産システムについて

表10 院内助産・助産師外来開設状況

区分	n=57 (施設)			
	回答数	病院	診療所	割合(%)
院内助産	3	3	0	5.3
助産師外来	26	24	2	45.6
院内助産・助産師外来両方あり	3	3	0	5.3
院内助産	1	1	0	1.8
助産師外来	1	0	1	1.8
どちらもあり	29	21	9	50.9
無回答	2	2	0	3.5
合計	66	54	12	

表11 院内助産開設が困難な理由 (複数回答)

区分	n=57 (施設)		
	回答数	病院	診療所
マンパワー不足	33	28	5
助産師の実践能力不足	19	15	4
医師からの理解が得られない	7	6	1
設備的要因	16	14	2
経済的要因	6	5	1
その他	8	7	1

表12 助産師外来開設が困難な理由 (複数回答)

区分	n=57 (施設)		
	回答数	病院	診療所
マンパワー不足	19	14	5
助産師の実践能力不足	9	4	5
医師からの理解が得られない	3	2	1
設備的要因	6	5	1
経済的要因	1	1	0
その他	4	4	0

院内助産の開設は3施設(5.3%)と少ないことが明らかとなったが、助産師外来は26施設(45.6%)で、約半数の施設で開設していることが明らかとなった。開設にあたり、困難な理由で最も多かったのは、院内助産・助産師外来共に「マンパワー不足」が最も多かった。

(6) アドバンス助産師と専施設助産師の申請について

表13 アドバンス助産師在籍状況

区分	n=57 (施設)		
	回答数	病院	診療所
いる	51	43	8
いない	6	3	3
合計	57	46	11

割合(%)

区分	割合(%)
総数341名(最大20名、最小1名、平均6.0名)	
今後申請予定あり	33(64.7%)
今後申請予定なし	12(23.5%)
無回答	6(11.8%)
今後申請予定あり	1(16.7%)
今後申請予定なし	5(83.3%)

アドバンス助産師在籍状況は、「いる」が51施設(89.5%)で、約9割の施設が在籍し、最大20名、平均6.0名が在籍していることが明らかとなった。「いない」施設は6施設(10.5%)であり、今後申請予定ありが1施設(6.7%)だった。

(7) 助産実践能力の習熟に係る課題について

表14 課題の有無

区分	n=57 (施設)		
	回答数	病院	診療所
ある	51	42	9
ない	4	3	1
無回答	2	1	1
合計	57	46	11

割合(%)

区分	割合(%)
ある	89.5
ない	7.0
無回答	3.5
合計	100.0

表15 課題の内容 (複数回答)

区分	n=55 (施設)		
	回答数	病院	診療所
分娩介助件数の不足	25	24	1
新生児健康診査件数の不足	8	7	1
妊婦健康診査件数の不足	11	9	2
産褥健康診査件数の不足	8	8	0
プライマリーケースの経験件数の不足	18	14	4
「集団指導」「母観学級」「同観学級」「緊急時の対応」についての習得が難しい	9	7	2
必須研修の機会不足	27	23	4
その他	2	2	0

割合(%)

区分	割合(%)
分娩介助件数の不足	45.5
新生児健康診査件数の不足	14.5
妊婦健康診査件数の不足	20.0
産褥健康診査件数の不足	14.5
プライマリーケースの経験件数の不足	32.7
「集団指導」「母観学級」「同観学級」「緊急時の対応」についての習得が難しい	16.4
必須研修の機会不足	49.1
その他	3.6

「助産実践能力の習熟に係る課題」は、「課題がある」と回答した施設は51施設(89.5%)で、内容としては、病院では「分娩介助件数の不足」が24件で最も多かった。次いで「必須研修の機会不足」23件、「プライマリーケースの経験数の不足」(14件)が多かった。診療所では「プライマリーケースの経験数の不足」(4件)、「必須研修の機会不足」(4件)が最も多かった。

II 助産師出向について

1 助産師を出向させること (出向元施設) について

表16 出向元の経歴の有無

区分	n=57 (施設)		
	回答数	病院	診療所
ある	11	11	0
ない	45	35	10
無回答	1	0	1
合計	57	46	11

割合(%)

区分	割合(%)
ある	19.3
ない	78.9
無回答	1.8
合計	100.0

2) 出向元の目的

表 17 出向元の目的 (複数回答) n=11 (施設)

区分	回答数	割合 (%)
助産実践能力向上 (人材育成)	6	54.5
地域連携 (他施設との交流)	3	27.3
人事交流	2	18.2
モチベーションの維持・向上	4	36.4
離職防止	0	0.0
産科病棟再開に向けた助産実践の確認 (経験)	1	9.1
地域偏在の是正 (マンパワー不足)	5	45.5
地域貢献	5	45.5
被災地支援	0	0.0
教育的支援	4	36.4
その他	2	18.2

出向について、出向元の経験の有無では、「ない」が45施設 (78.9%) で、約8割の施設で経験がなく、「ある」と回答した11施設 (19.3%) の出向形態は「在籍型出向」が9施設 (81.8%) で約8割を占めていた。

出向元の目的で最も多かったのは、「助産実践能力の向上 (人材育成)」が6施設 (54.5%) と最も多く、次いで「地域偏在の是正 (マンパワー不足)」が5施設 (45.5%) と多かった。

3) 出向させたことがない理由

表 18 出向させたことがない理由 (複数回答) n=45 (施設)

区分	回答数	割合 (%)
マンパワー不足のため出向させる助産師がいらない	39	86.7
出向の対象となる助産師がいらない	6	13.3
出向を希望する助産師がいらない	14	31.1
組織内の理解と合意を得ることが難しい	6	13.3
出向助産師が処遇等で不利益を被る心配がある	3	6.7
助産師出向支援事業に係る情報の不足	7	15.6
その他	2	4.4

出向させたことがない理由では、「マンパワー不足のため出向させる助産師がいらない」が39施設 (86.7%) で最も多く、次いで「出向を希望する助産師がいらない」が14施設 (31.1%) で多かった。

4) 出向元の予定について

表 19 今後の予定 n=57 (施設)

区分	回答数	割合 (%)
ある・準備中	4	7.0
今後検討予定	8	14.0
ない	42	73.7
無回答	3	5.3
合計	57	100.0

出向元の予定は、「ある・準備中」が4施設 (7.0%)、「今後検討予定」が8施設 (14.0%) に対し、「ない」が42施設 (73.7%) で最も多かった。

5) 出向させる理由

表 20 出向させる理由 (複数回答) n=4 (施設)

区分	回答数	割合 (%)
助産実践能力向上 (人材育成)	3	75.0
地域連携 (他施設との交流)	1	25.0
人事交流	1	25.0
モチベーションの維持・向上	3	75.0
離職防止	1	25.0
産科病棟再開に向けた助産実践の確認	0	0.0
地域偏在の是正 (マンパワー不足)	0	0.0
地域貢献	1	25.0
被災地支援	0	0.0
教育的支援	2	50.0
その他	0	0.0

出向させる理由は、「助産実践能力の向上 (人材育成)」・「モチベーションの維持・向上」が3施設 (75.0%) で最も多かった。

6) 出向元になる予定が「ない」理由

表 21 出向元になる予定が「ない」理由 (複数回答) n=42 (施設)

区分	回答数	割合 (%)
マンパワー不足のため出向させる助産師がいらない	33	78.6
出向の対象となる助産師がいらない	4	9.5
出向を希望する助産師がいらない	14	33.3
組織内の理解と合意を得ることが難しい	6	14.3
出向助産師が処遇等で不利益を被る心配がある	3	7.1
助産師出向支援事業に係る情報の不足	5	11.9
その他	2	4.8

出向元になる予定が「ない」理由は、「マンパワー不足のため出向させる助産師がいらない」が33施設 (78.6%) と最も多かった。次いで、「出向を希望する助産師がいらない」が14施設 (33.3%) で多かった。

2 助産師を自施設に受け入れること (出向先施設) について

(1) 出向助産師を受け入れた経験、出向形態について

1) 出向先の経験の有無

表 22 出向先の経験の有無 n=57 (施設)		
区分	回答数	割合 (%)
ある	16	28.1
ない	41	71.9
合計	57	100.0



2) 出向先の目的

表23 出向先の目的 (複数回答)

区 分	n=16 (施設)		
	回答数	病院	割合 (%)
助産実践能力向上 (人材育成)	7	6	43.8
地域連携 (他施設との交流)	1	1	6.3
人事交流	4	4	25.0
モチベーションの維持・向上	1	1	6.3
離職防止	0	0	0.0
産科病棟再開に向けた助産実践の確認 (経験)	1	1	6.3
地域偏在の是正 (マンパワー不足)	9	9	56.2
地域貢献	2	2	12.5
被災地支援	0	0	0.0
教育的支援	2	1	12.5
その他	0	0	0.0

出向先の経験の有無では、「ない」が 41 施設 (71.9%) で、約 7割の施設で経験がなく、「ある」と回答した 16 施設 (28.1%) の出向形態は「在籍型出向」が 16 施設 (100.0%) と最も多く、次いで「移籍型出向 (転籍)」が 12 施設 (75.0%) で多かった。

出向先の目的で最も多かったのは、「地域偏在の是正 (マンパワー不足)」が 9 施設 (56.2%) と最も多く、次いで「助産実践能力向上 (人材育成)」が 7 施設 (43.8%) と多かった。

3) 出向を受け入れたことが「ない」施設の原因

表24 出向先にならなかった理由 (複数回答)

区 分	n=41 (施設)		
	回答数	病院	割合 (%)
分娩の取り扱いはない	1	0	2.4
分娩はあるが、助産師主体の分娩ではない	3	2	7.3
受け入れについて施設内の合意が形成されていない	13	11	31.7
受け入れに必要な助産師業務に関するマニュアルが整備されていない	15	11	36.6
受け入れのメリットがない	12	10	29.3
助産師出向支援事業の係る情報の不足	7	5	17.1
その他	14	13	34.1

出向を受け入れたことがない理由では、「受け入れに必要な助産師業務に関するマニュアルが整備されていない」が 15 施設 (36.6%) で最も多く、次いで「その他」が 14 施設 (34.1%) で多かった。

4) 今後の受け入れ予定

表25 今後の受け入れ予定 (n=57 (施設))

区 分	n=57 (施設)		
	回答数	病院	割合 (%)
ある・準備中	8	8	14.0
今後検討予定	11	10	19.3
ない	38	28	66.7
合計	57	46	100.0

出向先の予定では、「ある・準備中」が 8 施設 (14.0%)、「今後検討予定」が 11 施設 (19.3%) に対し、「ない」が 38 施設 (66.7%) で最も多かった。

5) 出向先の目的

表26 「ある・準備中」の 8 施設の出向先の目的 (複数回答) n=8 (施設)

区 分	n=8 (施設)	
	回答数	割合 (%)
助産実践能力向上 (人材育成)	3	37.5
地域連携 (他施設との交流)	2	25.0
人事交流	2	25.0
モチベーションの維持・向上	2	25.0
離職防止	0	0.0
産科病棟再開に向けた助産実践の確認 (経験)	1	12.5
地域偏在の是正 (マンパワー不足)	6	75.0
地域貢献	2	25.0
被災地支援	0	0.0
教育的支援	0	0.0
その他	0	0.0

出向先になる予定が「ある・準備中」と回答した 8 施設の出向の目的として、「地域偏在の是正 (マンパワー不足)」が 6 施設 (75.0%) で最も多く、次いで「助産実践能力の向上 (人材育成)」が 3 施設 (37.5%) で多かった。

6) 出向先になる予定が「ない」理由

表27 出向先になる予定が「ない」理由 (複数回答) n=38 (施設)

区 分	n=38 (施設)		
	回答数	病院	割合 (%)
分娩の取り扱いはない (少ない)	1	0	2.6
分娩はあるが、助産師主体の分娩ではない	3	1	7.9
受け入れについて施設内の合意が形成されていない	11	10	28.9
受け入れに必要な助産師業務に関するマニュアルが整備されていない	13	9	34.2
受け入れのメリットがない	11	8	28.9
助産師出向支援事業の係る情報の不足	7	4	18.4
その他	13	12	34.2

出向先になる予定が「ない」理由では、「受け入れに必要な助産師業務に関するマニュアルが整備されていない」(34.2%) が最も多く、次いで、「受け入れについて施設内の合意が形成されていない」、「受け入れのメリットがない」が 11 施設 (28.9%) で多かった。

### III まとめ

助産師出向に係る意向調査では、87 施設中 57 施設で回答が得られ、道内の分娩取り扱い施設における周産期医療機能および分娩件数、医師・助産師の就業状況、助産師出向の経験の有無やニーズを把握することができた。

助産師 1 人あたりの経産分娩介助数は、全体でみると 21.5 件であるが、病院別・有床診療所別で見ると「病院の助産師」が 19.4 件、「有床診療所の助産師」では 38.7 件と約 2.0 倍であり、最も差があったのは、「道南圏の有床診療所助産師」の最大 53.7 件、「道央圏の病院助産師」の最小 17.3 件で、医療圏域別や施設種別ごとの状況が明らかになった。

妊婦の多様なニーズに応え、地域における安全・安心・快適なお産の場を確保するとともに、産科病院・産科診療所において助産師を自立させ、正常産を助産師が担うことで産科医師の負担を軽減するという目的で院内助産、助産師外来を推進していく動きがある中、今回の調査では、院内助産が 3 施設 (5.3%)、助産師外来 26 施設 (45.6%) という結果にとどまっている。「マンパワー不足」や「分娩介助数の不足」が要因となっていることが明らかとなった。アドバンス助産師在籍状況は、「い」が 89.5% で、ほとんどの施設に在籍していることが明らかとなった。

出向について、出向元施設となる理由では、「助産実践能力の向上 (人材育成)」のニーズが最も高く、出向先施設となる理由では、「地域偏在の是正 (マンパワー不足)」のニーズが最も高かった。しかし、出向元施設で出向を可能にする条件は、「マンパワーを確保する」、「出向できない理由に「マンパワー不足」があげられていることから、マンパワー不足が解消されれば、なげがマッピングに結びつけない実情がある。出向先施設では、出向助産師の即戦力が求められることから、出向元施設の「助産実践能力向上 (人材育成)」の目的を達成するためには、実務経験と判断力を備えた人材の確保が必要となると考えられる。

出向元施設、出向先施設の双方の目的の一致が助産師出向のマッチング等を推進し、出向先施設に繋がることの示唆を得た。また、出向において、出向元施設で調整を行う実地していることが明らかとなった。

今後も引き続き、調査結果をもとに道内の助産師出向支援を継続して推進していきたい。

## 【 助産師出向実績 目的別 】

○ 応援出向 ● 応援+研修 ◎ 研修

## 1) 応援出向

## (1) 出向元施設

施設名	年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
		平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	
札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル		○	○○		休止			3名
町立中標津病院		○○						2名
札幌医科大学附属病院		○○					●	3名
旭川医科大学病院			○●					2名
手稲溪仁会病院				○			●	○
合計		5名	4名	1名	0名	1名	2名	13名

## (2) 出向先施設

施設名	年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
		平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	
遠軽厚生病院		○			休止	●		2名
市立根室病院		○○					○	3名
浦河赤十字病院		○○						2名
市立稚内病院			●				●	2名
小樽協会病院			○○					2名
富良野協会病院			○					1名
苫小牧市立病院				○				1名
合計		5名	4名	1名	0名	1名	2名	13名

## 2) 研修目的出向

## (1) 出向元施設

施設名	年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
		平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	
札幌医科大学附属病院					休止	◎		1名
市立札幌病院							◎◎	◎
合計		0名	0名	0名	0名	3名	1名	4名

## (2) 出向先施設

施設名	年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
		平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	
札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル					休止	◎		1名
五輪橋マタニティクリニック							◎◎	◎
合計		0名	0名	0名	0名	3名	1名	4名

## 【 助産師出向実績 年度別 】

年度	出向元施設	出向先施設	出向目的	出向助産師数	出向期間	分娩介助数
2017 平成29	札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル	遠軽厚生病院	応援	1名	3か月	1
	町立中標津病院	市立根室病院	応援	2名	1.5か月/25日	0/0
	札幌医科大学附属病院	浦河赤十字病院	応援	2名	1か月/1か月	3/2
計	3施設	3施設		5名		

年度	出向元施設	出向先施設	出向目的	出向助産師数	出向期間	分娩介助数
2018 平成30	旭川医科大学病院	市立稚内病院	応援 研修	1名	8か月	23
	札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル	小樽協会病院	応援	1名	2か月	0
	旭川医科大学病院	小樽協会病院	応援	1名	3か月	7+帝切1
	札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル	富良野協会病院	応援	1名	3か月	2
計	2施設	3施設		4名		

年度	出向元施設	出向先施設	出向目的	出向助産師数	出向期間	分娩介助数
2019 令和元	手稲溪仁会病院	苫小牧市立病院	応援	1名	3か月	15+帝切12
計	1施設	1施設		1名		

2020 令和2	事業休止
-------------	------

年度	出向元施設	出向先施設	出向目的	出向助産師数	出向期間	分娩介助数
2021 令和3	札幌医科大学附属病院	札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル	研修	1名	3.5か月	38
	手稲溪仁会病院	遠軽厚生病院	応援 研修	1名	2か月	3+帝切1
	市立札幌病院	五輪橋マタニティクリニック	研修	1名	1か月	7
	市立札幌病院	五輪橋マタニティクリニック	研修	1名	1か月	8
計	3施設	3施設		4名		

年度	出向元施設	出向先施設	出向目的	出向助産師数	出向期間	分娩介助数
2022 令和4	札幌医科大学附属病院	市立稚内病院	応援 研修	1名	2か月	8+帝切5
	手稲溪仁会病院	市立根室病院	応援	1名	2か月	2
	市立札幌病院	五輪橋マタニティクリニック	研修	1名	1か月	11
計	3施設	3施設		3名		

広報内容

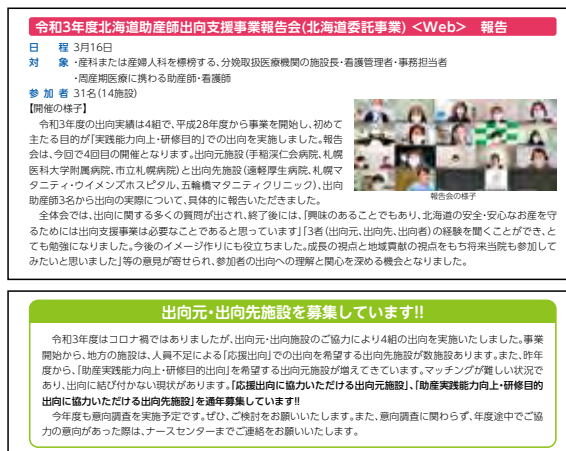
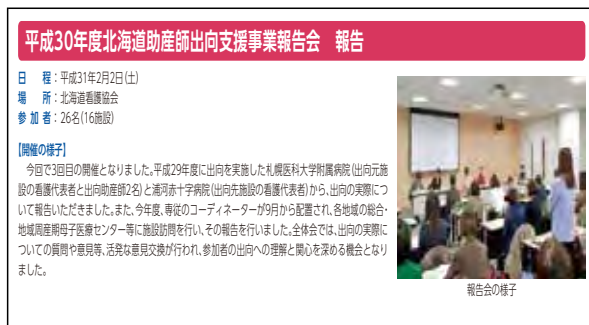
1) 北海道看護協会ナースセンター ホームページ



2) 北海道看護協会ニュース

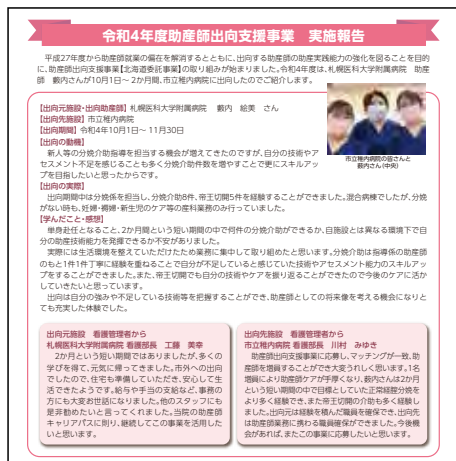
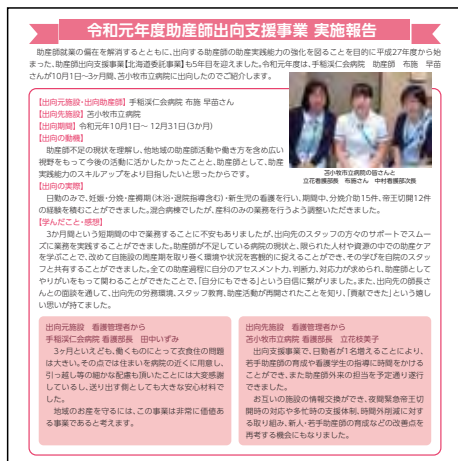
①2019年4月号 ナースセンターだより第65号

③2022年4月号 ナースセンターだより第80号



②2020年4月号 ナースセンターだより第70号

④2023年1月号 ナースセンターだより第84号



# 北海道助産師出向支援事業報告書 (2018～2022年度)

2024年3月発行

公益社団法人 北海道看護協会

**ナースセンター**

〒003-0027 札幌市白石区本通17丁目北3番24号

Tel 011-863-6794



公益社団法人 **北海道看護協会**  
Hokkaido Nursing Association